

ひまわりキッズガーデン大原 2025 年度事業計画

社会福祉法人ひまわり福祉会

1. 基本情報

(1) 所在地

東京都板橋区大原町13番1号

(2) 保育理念

身近な大人との愛着関係を基盤に、「受容性」から「好奇心・探求心」へ。
さらに「主体性」を持って成長する子を育みます。

(3) 保育方針

保育園に集うたくさんの親や子どもが、小さな社会体験と生活体験を重ねながら、地域の
一員として様々な人々と共に暮らす知恵と力を身につけます。
そのためにひまわりの保育園では「出会う」「見る」「聴く」「触る」「体験する」「語
り合う」「認め合う」場をつくります。

(4) 保育目標

和と輪と話を実践する子ども

2. 前年度振り返り・課題

(1) 利用者数

	利用定員	利用者数 (期首)	利用者数 (期末)	利用者数 増減 (期首～期末)	空き定員	対前年比 (利用者数 (期末))
全体	36名	36名	36名	0名	0名	0名
0歳児	6名	6名	6名	0名	0名	+6名
1歳児	6名	6名	6名	0名	0名	+6名
2歳児	6名	6名	6名	0名	0名	+6名
3歳児	6名	6名	6名	0名	0名	+6名
4歳児	6名	6名	6名	0名	0名	+6名
5歳児	6名	6名	6名	0名	0名	+6名

(2) 職員数

	人数 (期首)	人数 (期末)	離職数	新規採用数	(内新卒採用数)
全体	18 名	19 名	2 名	4 名	(1 名)
園長	1 名	1 名	0 名	0 名	(0 名)
保育士	14 名	15 名	2 名	3 名	(1 名)
幼稚園教諭	0 名	0 名	0 名	0 名	(0 名)
看護師	1 名	1 名	0 名	0 名	(0 名)
保育補助	1 名	1 名	0 名	1 名	(0 名)
用務	0 名	0 名	0 名	0 名	(0 名)
事務	1 名	1 名	0 名	0 名	(0 名)

(3) 前年度目標と振り返り

① 保育活動

目標

子どもの健全な育成
保護者の就労支援
地域を含めた子育て支援

振り返り・課題

2024 年度の保育活動では、新入園児 6 名を迎え、定員 36 名で新年度をスタートしました。入園進級お祝い会では、職員や新入園児の紹介、5 歳児クラスの園児によるマジック発表などを行い、温かく迎え入れました。保護者会では、1 年間の保育の見通しや子ども達の様子を写真や動画で伝え、懇談の時間では保護者同士で悩みを共有し、情報交換を行いました。個別面談では園での様子や家庭での悩みを伺いました。敬老の日には祖父母交流会を開催し、園児（孫）との触れ合いを楽しむ時間を提供しました。運動会や長距離散歩を通じて、子どもたちの体力向上や仲間との絆を育みました。また、園の近くにある高齢者施設との交流を始め、世代を超えたふれあいを大切にしました。次年度も心身ともに成長できる環境づくりを進めてまいります。

② 職員の処遇

目標

安全管理意識の向上と徹底
保護者や地域との連携強化
職員間の協力体制の確立

振り返り・課題

2024年度は、安全管理意識の向上と徹底を目指し、外部講師による重大事故防止研修や男性保育士向けの性犯罪防止研修を実施しました。これにより、職員の危機管理意識が高まりましたが、日常業務を続けていくなかでの意識維持が課題と感じています。また、保護者や地域との連携強化を図るため、保護者会や祖父母交流会を開催し、関係を深めましたが、参加率の向上が今後の課題です。職員間の協力体制の確立については、職員が1名休職となる中で協力し合いながら保育を進めることができたが、業務負担の偏りが見られたため、均等な業務分担が課題となりました。

③ 運営管理

目標

安全な保育環境の整備
効果的な職員研修の実施
地域との交流促進

振り返り・課題

安全な保育環境の整備を目指し、安全管理規定の読み合わせや救命訓練を実施しました。特に、アレルギー事故防止の意識が高まりましたが、実際の緊急時対応のスムーズさが課題として残りました。また、警察署と連携した不審者対応訓練では、職員の初動対応が概ね適切でしたが、不審者が今どこにいるのかなどの情報共有の課題が残りました。効果的な職員研修の実施については、外部講師による研修を通じて職員のスキル向上を図りましたが、研修内容の実践への反映が課題です。地域との交流促進に関しては、近隣の姉妹園や地域の方々との関わりを増やし、保護者や地域との連携を強化しましたが、継続的な交流の仕組み作りが今後の課題となります。

3. 施設運営

(1) 当年度目標

① 保育活動 全体

- ・各主任が4つの視点を理解し、月案に反映できるようにする。
- ・職員全員が主任会議の内容を理解し、実践に活かせるようにする。

① 保育活動（各組の保育目標）

担当	目標
0 歳児	- 安定した生活リズムと身近な大人との信頼関係をもとに、人との関わりを喜び、心身の健やかな成長を育む。 - 安心できる環境の中で、五感を使った体験を通し、身のまわりに対する興味や好奇心の芽生えを育む。
1 歳児	- 保育者との信頼関係の中で、心の安定を基盤とし、自我の芽生えを育む。 - 生活や遊びの中で五感を使い、心身の健やかな発達と、生活の基礎となる力を育む。
2 歳児	- 自己主張を十分に受け入れてもらい、安定して過ごす中で、自分でできた喜びを感じる - 大人に見守られながら意欲的に自分のことは自分でしようとする。 - 身近な大人や友達集団とともに体験を共有しながら、言葉を表出する心地良さを味わう。 - 生活や遊びの中で、体を動かすことを十分に楽しむ
3 歳児	- 自己主張しながらも、自分以外の人の気持ちにも気づいたり、相手の気持ちを受け入れようとしたりする。 - 生活や遊びの中に期待や見通しを持ち、自分のことは自分でしようとする。 - 身近な大人や友達集団とともに体験を共有しながら、言葉を交わす心地良さを味わう。 - 生活や遊びの中で、全身を使って意欲的に活動する。
4 歳児	- 十分に自己を発揮しながら、相手の思いを受け入れ、自分の気持ちを調整しようとする。 - できることに喜びを感じながら、健康・安全など、生活に必要な習慣を身につける。 - 人の話に興味を持って聞いたり自分の体験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。 - 様々な遊びを通して全身を動かして遊ぶ楽しさを十分に味わう。課題にあわせて意識して身体を動かすようになる。
5 歳児	一つの目的意識のもとに関係し合い、事態や場面に応じて相手の立場に立って相手を理解し、解決しようとする。互いの違いや良さを認め合いながら、目的に向かって協力し、達成感や喜びを味わう。

	・ 身体や栄養、病気などに関心をもち、健康や安全など生活に必要な基本的習慣や態度を身につけ、見通しを持って主体的に行動する。 ・ 体験したことや自分の思いを相手に分るように筋道立てて話す。状況に応じて声の大きさや話し方など、相手に合わせて話せるようになる。 ・ 運動や遊具・用具を使用した活動を通し、自己の身体像を確立し、自分の身体の隅々までコントロールするようになる。相手の動きに合わせて、少しずつ動きを予測しながら自分の動きを調節しようとする。
--	--

② 職員の処遇

- ・ 職員がスキルアップできるような、パートナー制度を確立する
- ・ 保育士のスキル（音楽、絵画、運動など）を標準化し、具体的な目標を設定（例：音符が読めるようになる、ピアノの特定の曲を弾ける）

③ 運営管理

- ・ 施設全体で共通の目標に向かって進むための基盤を整える。
- ・ 3園間の交流を通じて、情報共有と連携を強化する。

(2) 実施施策

① 保育活動

施策 1

主任会議：4つの視点（生活習慣、身体能力、人間関係など）で月案を具体化し、主任間で統一認識を図る

職員会議：主任会議の内容を主任がプレゼンし、質問に対しても主任が答える

クラス会議：個別振り返り、行事の進め方（3か月先の計画）

乳幼児会議：年間カリキュラムの作成、具体的な活動内容の標準化（例：アジサイ作り、音楽、絵画、食育、生活習慣、数、文字）

② 職員の処遇

施策 1

人材育成：パートナー制度などの標準化

交換研修：5年目以上の先生を対象に、他の園のやり方を共有し、自分の保育に対する気づきを得る

スキル標準化：保育士のスキル（音楽、絵画、運動など）を標準化し、具体的な目標を設定（例：音符が読めるようになる、ピアノの特定の曲を弾ける）

③ 運営管理

施策 1

会議体の統一：園長と主任のマネジメントを標準化し、会議体を統一

3 園交流促進：各園の年齢ごとの担任が集まる時間を設け、情報共有を行う

(3) 児童の処遇

①クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数
もも組	0 歳	2 名	6 名
たんぽぽ組	1 歳	2 名	6 名
ちゅうりっぷ組	2 歳	1 名	6 名
すみれ組	3 歳	1 名	6 名
ゆり組	4 歳	1 名	6 名
ひまわり組	5 歳	1 名	6 名

②月別保育予定日数

4 月 . . . 2 5 日
5 月 . . . 2 5 日
6 月 . . . 2 5 日
7 月 . . . 2 6 日
8 月 . . . 2 5 日
9 月 . . . 2 4 日
1 0 月 . . . 2 6 日
1 1 月 . . . 2 3 日
1 2 月 . . . 2 4 日
1 月 . . . 2 2 日
2 月 . . . 2 2 日
3 月 . . . 2 5 日
合計 . . 2 9 2 日

(4) 健康管理

健康管理目標（全体）

子ども一人ひとりの発育・発達の個人差を考慮しながら、健康な生活習慣を身につけ、豊かな成長が遂げられるよう積極的に次の点に取り組みます。

i. 日常養護・健康管理

- ・ 保育士、看護師による視診
- ・ 午睡時の検温、午睡後の巡回、睡眠中の観察（睡眠チェック）

ii. 病気の予防と早期発見

- ・ 日常の手洗いを励行。
- ・ アルコール使用し、玄関での手指消毒を行う。
- ・ 感染症発生時には掲示や配信にて注意を促す。

iii. 安全と事故防止

- ・ 不審者対応として学校 110 番の設置
- ・ 警察署を招いて、不審者対応訓練を定期的に行なう
- ・ 玄関ドアは常に施錠しモニターで確認、オートロック開閉
- ・ 家具などに転倒防止具を取り付け、角部分には保護ガードを貼る
- ・ SIDS 予防（睡眠表による睡眠チェックを行う）
0 歳児 5 分おき、1～2 歳児 10 分おき、3～5 歳児 15 分おきに個別確認
- ・ 安全対策・記録カメラを設置し、保育中の安全対策を強化する。

iv. 健康増進と保健指導

- ・ ほけんだよりにて健康情報や流行している感染症などについて発信する。
- ・ 手洗い、うがい、鼻のかみ方の指導
- ・ 0 歳児は月に 2 回、1 歳以上は月 1 回の身体測定を行い子どもの発育及び発達状態を定期的に把握する

v. 環境衛生

- ・ 保育室の室温、湿度、換気、採光、騒音などの環境に配慮する。
- ・ 園舎内は電解水を用いて清掃、アルコール消毒実施。
- ・ 1 歳以上はコットベッド、0 歳児用午睡布団は丸洗いを行う（年 1 回）
- ・ 害虫駆除（年 2 回）
- ・ 0 歳児は毎日 2 回、1 歳児以上は使用した遊具はその都度消毒を行なう。
- ・ トイレクリーニングの実施（年 1 回）
- ・ オゾン発生器の設置
- ・ 空気清浄機を各部屋に設置

年間保健行事

保健行事 対象年齢

- ・ 内科健診 0 歳児（月 1 回）、1 歳児以上（年 2 回）
- ・ 歯科検診 全園児（年 2 回）

(5) 年間行事

主な年間行事

月例行事	誕生日会(当日に行う)、避難訓練、身体測定
4月	入園・進級お祝い会、保護者会(全クラス)
5月	こどもの日の集い、田植え遠足(5歳児親子)
6月	農業体験(5歳児)、個別面談
7月	七夕会、個別面談、一日特別保育(5歳児)
8月	プール
9月	引き渡し訓練、敬老お祝い会、稲刈り遠足(5歳児親子)
10月	合同運動会
11月	個別面談(全園児)
12月	お遊戯会、クリスマス会、もちつき会
1月	お店屋さんごっこ
2月	節分会、保護者会(0～4歳児)、お店屋さんごっこ
3月	ひなまつり会、お別れ遠足、保護者会(5歳児)、お別れ会、卒園式

(6) 食事

i. 目標

「丈夫な体、豊かな心を育む食経験を通して、自らの健康を育める子ども」
食は人間形成であり、人格形成である。乳幼児期にもっとも大切な栄養を豊かに摂取し、健康な身体作りをするとともに、食習慣を促し、生きる力の基礎を培う。

ii. 栄養管理

献立会議に参加し、栄養摂取量表を確認する。(献立会議月1回、食育会議月1回、離乳食・アレルギー食の打合わせは随時)

iii. 食育

食育は毎日の生活と遊びの中で、自らの意欲を持って体験を積み重ね、食べることを楽しみ、食事を楽しみあう子どもたちに成長していくことを期待するものである。そのために乳幼児には食域を広げ、子どもたちの食への興味を引き出すことを食育の目的とし「毎日食育」をベースに、企画する食育活動を加えて展開していく。

iv. 衛生管理

日々日常点検表と業務完了届を通して実施状況を確認。

v. 給与栄養目標（給食・おやつで摂りたい栄養量の目安）

	エネルギー kcal	蛋白質 g	脂質 g	カルシウム mg	鉄分 mg	ビタミンA μg	ビタミンB1 mg	ビタミンB2 mg	ビタミンC mg
3歳 未満児	465	17.5	15.5	213	2.0	188	0.20	0.28	18
3歳児 以上児	510	19.2	17.0	230	2.0	200	0.20	0.32	16

vi. その他

初期食1食、中期食2食、後期食1食

(7) 安全管理

安全管理目標

- ・交通安全や避難訓練について記述し、訓練日を記載します。
- ・交通安全教育：年1～2回 日付は未定
- ・非常災害時の避難訓練（毎月1回）
- ・引き渡し訓練（9月1日）
- ・不審者訓練 年1～2回 日付は未定

4. 施設管理

(1) 事務関係

① 会計事務、管理事務

- ・施設における現金は経理規定に沿って管理を行う。
- ・現金収支は小口現金出納帳をもとに管理を行う。
- ・予算書・稟議書を作成、収支の把握と管理を行なう。

② 児童処遇事務（保育、給食、保健）

- ・毎月の収支は資金収支予算実績報告をもとに管理を行う。
- ・給食に関しては委託業者との契約を行い毎月の支払いとする。
- ・嘱託医への支払いは契約書をもとに行う。
- ・延長保育利用料金等については月末締め、支払金額を保育業務管理ソフト「コドモン」に反映、エンペイに連動させてキャッシュレス決済

(2)設備関係

① 固定遊具の設備点検

- ・ 固定遊具なし・施設整備点検は毎月
- ・ トイレクリーニングの実施
- ・ エアコンクリーニングの実施

(3)備品関係

① 備品購入予定

- ・ 災害時使用電動自転車

② 保育用品購入予定

- ・ 絵本、玩具、運動用品、保育材料等

③ 給食用品購入予定

- ・ 食具、調理器具等、厨房機器の保守点検

④ 固定資産物品購入予定

- ・ 大型プール廃棄

(4)災害対策

① 避難訓練

- ・ 年間 1 2 回実施（内 1 回は保護者参加の引渡し訓練）

② 防災設備の点検委託

- ・ 年間 2 回実施

③ 非常食糧の備蓄

- ・ （全児童＋全職員数）× 3 食× 3 日分
- ・ 備蓄品の点検と追加購入、消費期限点検

5. 保護者へ向けて

保育への理解と協力の促進

① 保育参加

一日保育士体験(基本的には随時)：保育士体験を行う。集団の中での子どもの様子を知り、保育内容への理解を深めてもらう機会とする。

② 誕生会への参加

特にありません

③ 保護者会

保護者懇談会(年2回程度実施)・・・園の保育の理解、子どもの姿、発達を知る。
個別面談の実施(年2回程度)・・・園での子どもの様子、家庭での様子、子育て観の共有

④ 通信(お便り)

園だより(月1回)・・・園全体や地域に関わる情報などを発信する。保健に関する内容、乳幼児期の食生活について園と家庭の架け橋となる内容などを発信する。

クラスだより(月1回)・・・年齢毎の発達、育児情報、お知らせ、お願いなどを発信する
※上記おたよりやお知らせ等があった場合、教育施設向けICT支援ツール【コドモン】を使用して、連絡を行う。

⑤ 第三者評価の実施

第三者評価の受審予定

6. 地域社会との連携

地域社会との連携に関する取り組み

- ・ 町会への加入
- ・ 近隣小学校との交流
- ・ 小学校の先生をお招きしての育児講座
- ・ 高齢者施設への月1回の訪問(今後の感染症の状況により実施)
- ・ 要保護児童対策地域協議会への出席
- ・ 近隣児童館との交流(予定)

7. その他

その他取り組み

特にありません

ひまわりキッズガーデン小茂根 2025 年度事業計画

社会福祉法人ひまわり福祉会

1. 基本情報

(1) 所在地

東京都板橋区小茂根二丁目 1 1 番 1 2 号

(2) 保育理念

身近な大人との愛着関係を基盤に、「受容性」から「好奇心・探求心」へ。
さらに「主体性」を持って成長する子を育みます。

(3) 保育方針

保育園に集うたくさんの親や子どもが、小さな社会体験と生活体験を重ねながら、地域の
一員として様々な人々と共に暮らす知恵と力を身につけます。
そのためにひまわりの保育園では「出会う」「見る」「聴く」「触る」「体験する」「語
り合う」「認め合う」場をつくります。

(4) 保育目標

和と輪と話を実践する子ども

2. 前年度振り返り・課題

(1) 利用者数

	利用定員	利用者数 (期首)	利用者数 (期末)	利用者数 増減 (期首～期末)	空き定員	対前年比 (利用者数 (期末))
全体	6 5 名	5 6 名	5 7 名	+ 2 名	+ 9 名	+ 5 名
0 歳児	6 名	5 名	6 名	+ 1 名	0 名	0 名
1 歳児	7 名	7 名	7 名	0 名	0 名	0 名
2 歳児	7 名	7 名	7 名	0 名	0 名	0 名
3 歳児	1 5 名	1 5 名	1 5 名	0 名	0 名	+ 5 名
4 歳児	1 5 名	1 0 名	1 0 名	0 名	+ 5 名	+ 1 名
5 歳児	1 5 名	1 2 名	1 2 名	0 名	+ 3 名	- 2 名

(2) 職員数

	人数 (期首)	人数 (期末)	離職数	新規採用数	(内新卒採用数)
全体	17名	19名	0名	2名	(0名)
園長	1名	1名	0名	0名	(0名)
保育士	14名	15名	0名	0名	(0名)
幼稚園教諭	0名	0名	0名	0名	(0名)
看護師	1名	1名	0名	1名	(0名)
保育補助	0名	1名	0名	1名	(0名)
用務	0名	0名	0名	0名	(0名)
事務	1名	0名	0名	0名	(0名)

(3) 前年度目標と振り返り

① 保育活動

目標

- ・ 職員の「保育における自然」への知識習得と保育への展開
- ・ バージョンアップによる入園者・来園者・地域交流の定着化～地域から求められる・もっと提案される保育園へ～

振り返り・課題

OJT と OFFJT（主任による座学と保育展開）を仕組み化することで職員のスキルアップや保育への展開が確実に行われた。
施設バージョンアップに関しては目標としていた芝化はまだ達成できていないが、「とうきょうすくわくプログラム」と紐づけた中庭の緑化が計画的に進み、利用者からは評判の声をいただく。入園予定者までにはまだ認知されておらず、次年度に向けた継続した課題である。

② 職員の処遇

目標

- ・ 職員の「保育における自然」への知識習得と保育への展開
- ・ 保育スキルアップ（サインへの気づき力アップ・サインへの働きかけの標準化）

振り返り・課題

①同様、スキルアップは叶ったものの継続した学びが必要である。更に、取り組み内容が増えていることでの業務分担の整理は必要である。

次年度は特に組織体制の変更が伴う中では、職員の主体的な参画のもと、業務整理を行いたい。

③ 運営管理

目標

バージョンアップによる入園者・来園者・地域交流の定着化
～地域から求められる・もっと提案される保育園へ～

振り返り・課題

地域活動は継続しつつも、この3年で広がった内容を整理する段階に入っている。
園の目指す状態にとって選び取り、また新たな開拓や深める相手や内容を精査していく必要がある。

3. 施設運営

(1) 当年度目標

① 保育活動 全体

- ・利用者ニーズに沿った保育内容の見直しと充実
- ・魅力ある多彩な保育内容の発信

① 保育活動（各組の保育目標）

担当	目標
0歳児	・安定した生活リズムと身近な大人との信頼関係をもとに、人との関わりを喜び、心身の健やかな成長を育む。 ・安心できる環境の中で、五感を使った体験を通し、身のまわりに対する興味や好奇心の芽生えを育む。
1歳児	・保育者との信頼関係の中で、心の安定を基盤とし、自我の芽生えを育む。 ・生活や遊びの中で五感を使い、心身の健やかな発達と、生活の基礎となる力を育む。
2歳児	・自己主張を十分に受け止めてもらい、安定して過ごす中で、自分でできた喜びを感じる。 ・大人に見守られながら意欲的に自分のことは自分でしようとする。 ・身近な大人や友達集団とともに体験を共有しながら、言葉を表出する心地良さを味わう。 ・生活や遊びの中で、身体を動かすことを十分に楽しむ。
3歳児	・自己主張をしながらも、自分以外の人の気持ちにも気づいたり、相手の気持ちを受け入れようとする。 ・生活や遊びの中に期待や見通しを持ち、自分のことは自分でしようとする。

	・身近な大人や友達集団とともに体験を共有し、言葉を交わす心地良さを味わう。 ・生活や遊びの中で、全身を使って意欲的に活動する。
4 歳児	・十分に自己を発揮しながら、相手の思いを受け入れ、自分の気持ちを調整しようとする。 ・できることに喜びを感じながら、健康・安全など、生活に必要な習慣を身につける。 ・人の話に興味を持って聞いたり、自分の体験したことや思っていることを話し、言葉で伝える楽しさを味わう。 ・様々な遊びを通して全身を動かして遊ぶ楽しさを十分に味わう。課題に合わせて意識して身体を動かすようになる。
5 歳児	・一つの目的意識のもとに関係し合い、事態や場面に応じて相手の立場に立って相手を理解し、解決しようとする。互いの違いや良さを認め合いながら、目的に向って協力し、達成感や喜びを味わう。 ・身体や栄養、病気などに関心を持ち、健康や安全など生活に必要な基本的な生活習慣や態度を身につけ見通しを持って主体的に行動する。 ・体験したことや自分の思いを相手に分るように筋道立てて話す。状況に応じて声の大きさや話し方など、相手に合わせて話せるようになる。 ・運動や遊具・用具を使用した活動を通し、自己の身体像を確立し、自分の身体の隅々までコントロールするようになる。相手の動きに合わせて、少しずつ動きを予測しながら自分の動きを調整しようとする。

② 職員の処遇

- ・職務分担の 5 S（現場意見の反映）
- ・職員のスキルアップと標準化

③ 運営管理

- ・保護者との双方向コミュニケーションをベースとした園運営
- ・地域連携先と内容の見直し・アップデート
- ・PR 活動の充実

(2) 実施施策

① 保育活動

施策 1

- ・利用者ニーズである散歩機会の充実
- ・「とうきょうすくわくプログラム」を紐づけた保育内容（五感を使った身近な自然体験／造形活動）の充実

② 職員の処遇

施策 1

- ・新体制での役割再認識と、パート職員も含めた主体的な運営参画の仕組化

施策 2

- ・事業部交換研修と会議を繋げ、学びと実践の P D C A

③ 運営管理

施策 1

- ・園（クラス）からの発信機会の整理（学び→クラスだより→保護者会）
- ・“大きなうち保育”の価値浸透と園と利用者による運営検討の機会

施策 2

- ・目的に照らし合わせた地域 win-win の連携。

施策 3

- ・保護者やファンの声を活かした地域発信、更なるファンや入園希望者の獲得

(3) 児童の処遇

①クラス編成

にじ	0 歳児	保育士 2 名	園児 6 名
ほし	1 歳児	保育士 2 名	園児 7 名
そら	2 歳児	保育士 2 名	園児 7 名
もり	3 歳児	保育士 1 名	園児 1 5 名
うみ	4 歳児	保育士 1 名	園児 1 5 名
たいよう	5 歳児	保育士 1 名	園児 1 0 名

②月別保育予定日

4 月 . . . 2 5 日
5 月 . . . 2 4 日
6 月 . . . 2 5 日
7 月 . . . 2 6 日
8 月 . . . 2 5 日
9 月 . . . 2 4 日
1 0 月 . . . 2 6 日
1 1 月 . . . 2 3 日
1 2 月 . . . 2 4 日
1 月 . . . 2 3 日
2 月 . . . 2 2 日
3 月 . . . 2 5 日

合計 . . 2 9 2 日

(4) 健康管理

健康管理目標（全体）

子ども一人ひとりの発育・発達の個人差を考慮しながら、健康な生活習慣を身につけ、豊かな成長が遂げられるよう積極的に次の点に取り組みます。

i. 日常養護・健康管理

- ・ 健康管理カード（コドモンアプリでの管理）をもとに個々の健康観察と管理
- ・ 看護師による日々の巡回と子どもの視診を定期的に行い健康状況の把握を行う。

ii. 病気の予防と早期発見

- ・ 園の玄関前にアルコールを置き、来訪者には除菌・消毒を行っていただき、入室頂く。
- ・ 感染症が発症した際には、掲示等で保護者へ知らせ注意を促す。

iii. 安全と事故防止

- ・ 学校110番の設置。
- ・ 家具等は転倒防止具をつける。柱、角の部分には保護ガードをつける。
- ・ 事故防止マニュアルを確認し、安全策を図る。
- ・ ヒヤリハット・メッセージグレードを全職員が把握。分析を行い再発防止に努める。
- ・ SIDSの防止（午睡時睡眠チェック0歳児5分毎、1，2歳児10分毎、3歳児以上15分毎）
- ・ 安全対策・記録カメラを設置し、保育中の安全対策を強化する。

iv. 健康増進と保健指導

- ・ 保健だよりを毎月発行し、健康情報や保健指導を行う。

v. 環境衛生

- ・ 害虫駆除は年に2回業者へ委託。
- ・ 午睡用布団の丸洗い、乾燥を定期的に行う。
- ・ 玩具消毒を電解水で行う。（感染流行期においてはアルコール使用）
- ・ 感染流行期には電解水またはアルコールを用いて室内清掃を行う。
- ・ 業者によるトイレクリーニングを年1回実施する。
- ・ オゾン発生装置、空気清浄機を使用し常に衛生的な空間を保つ。

年間保健行事

内科健診・・・0歳児（月1回）・1歳児以上（年2回）
耳鼻科健診・・・実施なし
眼科健診・・・実施なし
視力検査・・・実施なし
歯科健診・・・全園児年2回
尿検査・・・実施なし

(5) 年間行事

主な年間行事

月例行事 誕生を祝う会

4月・・・入園進級お祝い会・保護者会
5月・・・田植え遠足・保護者会 5月・・・田植え遠足（5歳児親子）
6月・・・個別面談（全園児）、農業体験（5歳児）
7月・・・七夕・農業体験（5歳児）・一日特別保育（5歳児）
8月・・・卒園児交流
9月・・・引渡し訓練・稲刈り遠足（5歳児親子）・祖父母交流会・保護者会
10月・・・さつま芋掘り（5歳児）
11月・・・運動会・個別面談（0～4歳）
12月・・・クリスマス会・餅つき会
1月・・・個別面談（5歳）・おゆうぎ会
2月・・・節分・保護者会（0～4歳）
3月・・・ひなまつり・お別れ遠足・お別れ会・卒園式・5歳保護者会

(6) 食事

i. 目標

「丈夫な体・豊かな心を育む食経験を通して、自らの健康を育める子ども」
食は人間形成であり、人格形成である。乳幼児期にもっとも大切な栄養を豊かに摂取し、健康な身体作りをすると共に、食習慣を促し、生きる力の基礎を培う。

ii. 栄養管理

献立会議に参加すること、及び栄養摂取量表で確認する。

iii. 食育

食育は、毎日の生活と遊びの中で、自らの意欲を持って食に関わる体験を積み重ね、食べることを楽しみ、食事を楽しみあう子どもに成長していくことを期待するものです。
そのために乳幼児期は食域を広げ、子ども達の食への興味を引き出すことを食育の目的とし毎日食育をベースに、企画する食育活動を加えて展開します。
食育会議を毎月開催。

iv. 衛生管理

日々、日常点検表と業務完了届を通して実施状況を確認する。

v. 給与栄養目標（給食・おやつで摂りたい栄養量の目安）

	エネルギー kcal	蛋白質 g	脂質 g	カルシウム mg	鉄分 mg	ビタミンA μ g	ビタミンB1 mg	ビタミンB2 mg	ビタミンC mg
3歳 未満児	465	17.5	15.5	213	2.0	188	0.20	0.28	18
3歳児 以上児	510	19.2	17.0	230	2.0	200	0.20	0.32	16

vi. その他

離乳食：初期食 2名 中期食 3名 後期食 1名 完了食 0名
アレルギー対応児：
1名（豆乳・魚類）
2名（乳）

(7) 安全管理

安全管理目標

交通安全や避難訓練について記述し、訓練日を記載します。

交通安全教育 （4月・9月・3月）

非常災害時の避難訓練 （月1回）

引き渡し訓練 （9月1日）

不審者対応訓練 （年2回）

4. 施設管理

(1) 事務関係

① 会計事務、管理事務

- ・ 施設における現金の管理は経理規定に従って行う。
- ・ 現金収支は小口現金出納帳をもとに管理を行う。
- ・ 予算書・稟議書を作成、収支の把握と管理を行なう。

② 児童処遇事務（保育、給食、保健）

- ・ 毎月の収支は資金収支予算実績報告をもとに管理を行う。
- ・ 延長保育利用料金等については月末締め、支払金額を保育業務管理ソフト「コドモン」に反映、エンペイに連動させてキャッシュレス決済。
- ・ 給食に関しては、委託業者との契約を行い毎月の支払いとする。
- ・ 嘱託医への支払いは契約書をもとに行う。

(2)設備関係

① 固定遊具の設備点検

- ・ 特になし

(3)備品関係

① 備品購入予定

- ・ 園児用椅子

② 保育用品購入予定

- ・ 絵本・玩具・運動用品・保育教材等

③ 給食用品購入予定

- ・ 食器・調理器具等

④ 固定資産物品購入予定

- ・ 壁紙張り替え工事
- ・ 保育室ドア修理工事
- ・ 屋上芝化工事

(4)災害対策

① 避難訓練

- ・ 年間12回実施。（年1回保護者への引き渡し訓練実施）

② 防災設備の点検委託

- ・ 防火設備点検：年間2回実施（9月・3月）
- ・ 消防設備点検：年間1回実施（未定）

③ 非常食糧の備蓄

- ・ （全児童＋全職員数）×3食×3日分
- ・ 消費期限点検（4月・9月実施）

5. 保護者へ向けて

保育への理解と協力の促進

① 保育参加

- ・ 子ども達が園でどの様に過ごしているのか、また、クラスでの様子（友達や保育士との関わり等）などを知ってもらうことや、保育の準備や片付け等保育士の仕事を体験してもらうことで、保育園への理解を深める為に保育参加への呼びかけを行っている。
- ・ 保護者の希望により、随時参加可能である。

② 誕生会への参加

- ・ 月毎の誕生日会を行う。
 - ・ 更に子どもの誕生日当日または近い日に、その児だけの誕生会を行なう。
- 保護者には保育参加を通し、子どもの成長を実感してもらう。
また、生まれた日などのエピソードや子どもへの感謝等を伝える日にして頂く。

③ 保護者会

- ・ クラスの保護者会は年に3回開催。
- ・ クラスごとに行う。1年間の保育目標を伝え、子どもの発達の見通しを持ってもらう。アンケートや連絡帳から保護者が“今子育てで悩んでいる事”や“聴きたい内容”を分析し、テーマを決め開催する。

④ 通信（お便り）

- ・ 月1回：園だより・クラスだより・保健だより・食育だよりを発行（コドモン配信）
その他、行事やお知らせ等があった場合、コドモンを使用して連絡を行う。

⑤ 第三者評価の実施

- ・ 第三者評価を受審予定

6. 地域社会との連携

地域社会との連携に関する取り組み

- ・ 町会への加入。
- ・ 保育所体験、育児相談の実施。育児講座の開催。
- ・ 小中学校やあいキッズ（放課後事業）との交流。
- ・ 板橋区立小茂根図書館での作品展示、出張図書館での連携。地域へのお話会の共同開催。
- ・ CAP s 向原児童館でのイベント実施、講師参加。
- ・ 近隣保育園との交流。特にひまわりベビールーム小竹向原との交流や合同行事の開催
- ・ 要保護児童対策地域協議会への出席

7. その他

その他取り組み

特になし

ひまわりキッズガーデン東雲 2025 年度事業計画

社会福祉法人ひまわり福祉会

1. 基本情報

(1) 所在地

東京都江東区東雲一丁目9番18-203号

(2) 保育理念

身近な大人との愛着関係を基盤に、「受容性」から「好奇心・探求心」へ。
さらに「主体性」を持って成長する子を育みます。

(3) 保育方針

保育園に集うたくさんの親や子どもが、小さな社会体験と生活体験を重ねながら、地域の
一員として様々な人々と共に暮らす知恵と力を身につけます。
そのためにひまわりの保育園では「出会う」「見る」「聴く」「触る」「体験する」「語
り合う」「認め合う」場をつくります。

(4) 保育目標

和と輪と話を実践する子ども

2. 前年度振り返り・課題

(1) 利用者数

	利用定員	利用者数 (期首)	利用者数 (期末)	利用者数 増減 (期首～期末)	空き定員	対前年比 (利用者数 (期末))
全体	96名	90名	88名	▲2名	+8名	▲4名
0歳児	9名	9名	8名	▲1名	+1名	+8名
1歳児	12名	12名	12名	0名	0名	+12名
2歳児	15名	15名	15名	0名	+1名	+14名
3歳児	20名	17名	19名	+2名	+1名	+19名
4歳児	20名	19名	16名	▲3名	+6名	+14名
5歳児	20名	18名	18名	0名	+4名	+16名

(2) 職員数

	人数 (期首)	人数 (期末)	離職数	新規採用数	(内新卒採用数)
全体	19名	24名	2名	6名	(1名)
園長	1名	1名	0名	0名	(0名)
保育士	14名	15名	2名	3名	(1名)
幼稚園教諭	0名	0名	0名	0名	(0名)
看護師	1名	1名	0名	0名	(0名)
保育補助	2名	5名	0名	3名	(0名)
用務	1名	1名	0名	0名	(0名)
事務	0名	1名	0名	0名	(0名)

(3) 前年度目標と振り返り

① 保育活動

目標

- ・職員が保育内容や子どもの姿について発信し、保護者からのリアクションを引き出す
- ・保育参加を通して日常の保育の様子を知っていただくとともに、保育者とのコミュニケーションを図り子育て支援につなげる
- ・職員が地域の方に直接かかわることで、園への好感度を上げる

振り返り・課題

保育者が外部研修・園内研修を通して保育のレパトリーを広げて遊びや活動を充実させることに努めた。保育内容や子どもの姿・成長について発信をすることで、保護者からの反応や声を引き出すことが出来るようになってきた。保育参加については思ったほどの参加者数を得ることが出来なかったため、今後は参加する意図やメリットを積極的に発信することで興味を持っていただくようにしたい。地域活動は計画通りに進め、4名の方にリピートしてご利用いただいた。職員が地域の方に直接関わる機会も増え、アンケートでは家庭での子育てに活かせる・保育者の働きかけが参考になったとの感想も多かった次年度は、保育内容・地域活動の取り組みについて、新たなものも取り入れることで、さらなる好感度に繋げたい。

② 職員の処遇

目標

- ・発達過程に沿った遊び（玩具）を環境設定し、子どもの姿を捉えた関わりができるようになる
- ・専門/職務別リーダーとしてリーダーシップを図りながら、チームの保育力アップに貢献する

振り返り・課題

後半は、乳児会議・幼児会議で、撮影した保育の動画をもとに「子どもの姿」を捉える研修を取り入れた。子どもの姿のどこに着目するか、姿に対して保育者がどのような働きかけをしたら良いかなどを共有することができた。目にみえる子の姿だけでなく、姿の裏側にある「発達」を踏まえて、興味関心にあった遊び（玩具）の環境を整えられるよう、次年度も引き続き学びを継続する。

まずはキャリアアップ研修の内容を個々が活かすことができるように、他の職員との共有を図った。次年度は、チームとして活用できるようにする。

③ 運営管理

目標

- ・学ぶ機会を通して個人のスキルアップをチームの保育力につなげる

振り返り・課題

造形研修は職員全体で共有し、チームとしてあらたな取り組みに繋がられた。今年度は、園として造形活動に力を入れたことで、職員の学ぶ意欲が増して職員間に広がっていく場面もみられた。職員のモチベーションUPが、保育の質の向上やチームの連携に繋がっていくため、次年度も継続して学びの機会を多く取り入れていく。今まで、運動遊び・造形遊びに力を入れてきて、次年度は音楽リズムにも領域を広げたい。

3. 施設運営

(1) 当年度目標

① 保育活動 全体

「子どもたちがやりたいことを見つけ、意欲が育まれる保育の展開」

「園児や職員が地域と関わる機会を増やす」

① 保育活動（各組の保育目標）

担当	目標
0 歳児	・ 安定した生活リズムと身近な大人との信頼関係をもとに、人との関わりを喜び、心身の健やかな成長を育む ・ 安心できる環境の中で、五感を使った体験を通し、身のまわりに対する興味や好奇心の芽生えを育む
1 歳児	・ 保育者との信頼関係の中で、心の安定を基盤とし、自我の芽生えを育む ・ 生活や遊びの中で五感を使い、心身の健やかな発達と、生活の基盤となる力を育む
2 歳児	・ 自己主張を十分に受け止めてもらい、安定して過ごす中で、自分でできた喜びを知る ・ 大人に見守られながら意欲的に自分のことを自分でしようとする ・ 身近な大人や友達集団とともに体験を共有しながら、言葉を表出する心地よさを味わう ・ 生活や遊びの中で、体を動かすことを十分に楽しむ
3 歳児	・ 自己主張しながらも、自分以外の人の気持ちにも気づいたり、相手の気持ちを受け入れようとする ・ 生活や遊びに期待や見通しを持ち、自分のことを自分でしようとする ・ 身近な大人や友達集団とともに体験を共有しながら、言葉を交わす心地よさを味わう ・ 生活や遊びの中で、全身を使って意欲的に活動する
4 歳児	・ 十分に自己を発揮しながら、相手の思いを受け入れ、自分の気持ちを調整しようとする ・ できるように喜びを感じながら、健康・安全など、生活に必要な生活習慣を身につける ・ 人の話に興味を持って話したり、自分の体験したことや思っていることを話し、言葉で伝える楽しさを味わう
5 歳児	・ 一つの目標意識のもとに関係しあい、事態や場面に応じて相手の立場に立って相手を理解し、解決しようとする。互いの違いや良さを認め合いながら、目標に向かって協力し、達成感や喜びを味わう ・ 身体や栄養・病気などに関心を持ち、健康や安全など生活に必要な基本的習慣や態度を身につけ、見通しを持って主体的に活動する ・ 体験したことや自分の思いを相手に分かるように筋道を立てて話す。状況に応じて声の大きさや話し方など、相手に合わせて話せるようになる。 ・ 運動や遊具・用具を使用した活動を通して、自己の身体像を確立し、自分の身体隅々までコントロールするようになる。相手の動きに合わせて少しずつ動きを予測しながら自分の動きを調整使用とする。

② 職員の処遇

比較的経験年数の浅い職員・パート職員の人数比率が高いチームになっている。中堅職員がリーダーシップを取って、連携力をアップしていくことが課題と考えている。

2025年度は「個人のスキルアップをチーム力アップにつなげる」ことを目指して、風通しの良い組織づくりに努める

③ 運営管理

「職員同士がコミュニケーションを図り、連携できるチームづくり」

- ・ 会議・打ち合わせ

- ・ 職員会議（毎月月初に実施）…クラス・給食・看護・業務係からの報告連絡事項。

園長・副園長からの連絡事項。園内研修。

- ・ パート会議（毎月職員会議後に実施）…職員会議（園内研修含む）の伝達

パート職員の意見の収集

- ・ クラス会議（第3週）…当月の課題を踏まえた次月の計画の確認と共有。次月週案の検討。行動基準の見直しと更新。

- ・ 乳児会議・幼児会議（第3週目）…乳児・幼児全体の共通事項や情報の共有。
ひまわりの考え方に基づく保育を行なうために、
発達や内容についての話し合いを行なう。

- ・ 標準化会議（第4週目）…実行計画進捗の確認（園における課題を認識し、意図に沿った業務・保育の見直し・検討・提案を行う。）

職員会議の議事確認

- ・ 昼礼 …午前中の子どもや保護者に関する事項の遅番への引継ぎ。怪我・体調・延長利用者確認・メッセージグレードとヒヤリハットの共有・園長・副園長からの伝達事項。

- ・ 研修計画

職員個別に研修計画を策定

行政主催の研修参加

保育団体主催の研修参加

外部講師・事業部による研修

園内研修

(2) 実施施策

① 保育活動

施策1

運動、造形、音楽リズム、戸外遊びなど多彩な保育内容の取り入れ

施策2

子どもの姿やサインを捉えて、発達に即した環境を整える

施策3

地域に向けての活動の新たな取り組み

② 職員の処遇 カテゴリーごとの実施施策

施策1

職員が新たな取り組みにチャレンジし、得意分野を活かしてチームに貢献する

施策2

保育内容の発信の強化

③ 運営管理

施策 1

保育や業務の基本の確認を行い、職員が戸惑いなく仕事ができる仕組みづくり

施策 2

話し合いやコミュニケーションの場づくり

(3) 児童の処遇

①クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	備考
つき	0歳児	9名	
ほし	1歳児	11名	
そら	2歳児	15名	
なみ	3歳児	18名	
にじ	4歳児	19名	
ひかり	5歳児	16名	

②月別保育予定日数

4月・・・25日
5月・・・24日
6月・・・25日
7月・・・26日
8月・・・25日
9月・・・24日
10月・・・26日
11月・・・24日
12月・・・24日
1月・・・23日
2月・・・22日
3月・・・25日

合計・・・293日

(4) 健康管理

健康管理目標（全体）

子ども一人ひとりの発育・発達の個人差を考慮しながら、健康な生活習慣を身につけ、豊かな成長が遂げられるよう積極的に次の点に取り組みます。

i. 日常養護・健康管理

- ・登園時0歳児は園内で検温し、その日の健康状態を保護者保育士双方で確認し、お預かりする。1～5歳児は、登園時に健康状態を保護者に確認する。
- ・前日夜から当日の朝までのご家庭での様子は、連絡帳を通して家庭より引き継ぎをする。（0歳～2歳児は園での様子も連絡帳に記載）

ii. 病気の予防と早期発見

- ・感染症予防は手洗い・うがいが基本ととらえ、子ども達にも指導を行う。登園時には玄関入り口でアルコールにて手指消毒する。
- ・保護者・外部からの来訪者ともに、園内に入る際には玄関入口でアルコール手指消毒をしていただく。

- ・感染症が発生した際には、保護者に掲示し感染防止に協力をお願いする。
- ・SIDSの予防の周知、睡眠チェックの徹底
(0歳児：5分毎、1～2歳児：10分毎、3歳児～：15分毎)

iii. 安全と事故防止

- ・学校110番の設置。
- ・保護者は登録制の顔認証システムを導入。来訪者はインターホンとモニターで確認をしてから開錠する。
- ・家具等の転倒防止対策。
- ・安全計画をもとに、毎月安全に対する確認や共有を行う。
- ・安全委員会を中心に事故の防止に努める。ヒヤリハット、メッセージグレードを通して事例検討、再発防止を話し合い、対策を行なう。

iv. 健康増進と保健指導

- ・園医による歯磨き指導（年間1回）
- ・看護師による健康指導（手洗い・排便など、その他必要に応じて実施）
- ・年間で薄着を勧め、子ども達が自ら体温調節を行えるからだづくりを行う。

v. 環境衛生

- ・玄関での手指消毒の徹底
- ・遊具が子どもの口に入る事を考慮し消毒は薬品を使用せず、電解水（アルカリ水・酸性水）、消毒BOX（オゾン）を使用して玩具消毒を行う。
- ・手洗いはペーパータオルを使用。
- ・使用済みの紙オムツは、都度ビニール袋に入れて結び、蓋つきのゴミ箱の中で保管する。
- ・害虫駆除（年間2回）
- ・調理室グリストラップ清掃
- ・排水管高圧洗浄
- ・事業者による年1回のトイレクリーニング、エアコンクリーニングの実施。
- ・オゾン生成器、空気清浄機の設置

年間保健行事

- ・内科健診 0歳児（月1回）、1歳児以上（年2回）
- ・耳鼻科健診 実施なし
- ・眼科健診 実施なし
- ・視力検査 4歳、5歳児（看護師による簡易検査を年2回）
- ・歯科健診 年2回
- ・尿検査 実施なし

(5) 年間行事

主な年間行事

- 月例行事 0歳児健診、避難消火訓練、保育参加
- 4月 入園式、保護者会
- 5月 こどもの日、個別面談、田植え（4・5歳児）
- 6月 個別面談、水遊び開始
- 7月 七夕、1日特別保育（5歳児）、水遊び
- 8月 水遊び
- 9月 引き渡し訓練、保護者会、親子稲刈り遠足（4・5歳児）、祖父母ふれあいデー
- 10月 親子遠足（3歳児）
- 11月 個別面談（0～4歳児）、乳児ふれあいデー

- 1 2月 幼児発表会、クリスマス、もちつき（鏡餅作り）
- 1 月 個別面談（5歳児）、保護者会
- 2 月 節分 お別れ遠足（5歳児）
- 3 月 ひな祭り、卒園式、お別れ会

(6) 食事

i. 目標

「丈夫な体・豊かな心を育む食経験を通して、自らの健康を育める子ども」
食は人間形成であり、人格形成である。乳幼児期にもっとも大切な栄養を豊かに摂取し、健康な身体作りをすると共に、食習慣を促し、生きる力の基礎を培う。

ii. 栄養管理

食育会議に参加すること、及び栄養摂取量表で確認する

iii. 食育

食育は、毎日の生活と遊びの中で、自らの意欲を持って食に関わる体験を積み重ね、食べる事を楽しみ、食事を楽しみあう子どもに成長していく事を期待するものです。そのために乳幼児期には食域を広げ、子ども達の食への興味を引き出す事を食育の目的とし、毎日食育をベースに、企画する食育活動を加えて展開します。を確認する。

iv. 衛生管理

日々日常点検表と業務完了届を通して実施状況

v. 給与栄養目標（給食・おやつで摂りたい栄養量の目安）

	エネルギー kcal	蛋白質 g	脂質 g	カルシウム mg	鉄分 mg	ビタミンA μg	ビタミンB1 mg	ビタミンB2 mg	ビタミンC mg
3歳未満児	465	17.5	15.5	213	2.0	188	0.20	0.28	18
3歳児以上児	510	19.2	17.0	230	2.0	200	0.20	0.32	16

vi. その他

離乳食 初期5名 中期0名 後期4名
アレルギー児 1名

(7) 安全管理

安全管理目標

安全計画をもとに毎月マニュアルや現状の確認を行うことで、利用者にとって安全で安心な保育園運営を行う

4. 施設管理

(1) 事務関係

① 会計事務、管理事務

- ・ 施設における現金は経理規定に沿って管理を行う。
- ・ 現金収支は小口現金出納帳をもとに管理を行う。
- ・ 予算書・稟議書を作成、収支の把握と管理を行なう。

② 児童処遇事務（保育、給食、保健）

- ・ 毎月の収支は資金収支予算実績報告をもとに管理を行う。
- ・ 延長保育利用料金等については月末締め、支払金額を保育業務管理ソフト「コードモン」に反映、エンペイに連動させてキャッシュレス決済。
- ・ 給食に関しては委託事業者と契約を行い毎月の支払とする。
- ・ 嘱託医への支払いは契約書をもとに行う。

(2) 設備関係

① 固定遊具の設備点検

- ・ 固定遊具特になし
- ・ 施設整備点検は毎月行う

(3) 備品関係

① 備品購入予定

- ・ 幼児体操服（Tシャツ）
- ・ 防災フロアーマット
- ・ 0・1歳児室縁台畳交換

② 保育用品購入予定

- ・ 絵本、玩具、保育教材等

③ 給食用品購入予定

- ・ 調理器具全般
- ・ 食器こども用

④ 固定資産物品購入予定

- ・ 床上張り工事
- ・ LED 電器交換工事

(4) 災害対策

① 避難訓練

- ・ 年間12回実施（保護者参加の引き渡し訓練を1回実施）
- ・ 津波対策としてマンション上層階への避難訓練

② 防災設備の点検委託

- ・ 株式会社建防メイセイへ委託
- ・ 年2回 消防設備点検実施（毎年7月・1月）
- ・ 年1回 特殊建築物定期検査実施 ※3年に1回、2025年度実施予定
- ・ 年1回 防火対象物点検（毎年10月頃）

- ・年1回 建築設備定期検査実施（10月頃）
- ・年1回 防火設備点検（毎年6～翌年3月までの間）※東急コミュニティーによる実施

③ 非常食糧の備蓄

- ・（全児童＋全職員数）×3食×3日分
- ・消費期限点検（4月実施）

5. 保護者へ向けて

保育への理解と協力の促進

① 保育参加

保育参加…園児の保護者を対象に保育参加を実施。子どもが園で過ごす姿を知っていただく。保育参加を通して、子どもの様子や他児との関わり、保育士との関わり等を見ていただき、ひまわりの保育への理解や連携及び問題点の共有、子育ての相談等を行う機会と捉える。

② 誕生会への参加

誕生月の午後16：00～ 乳児はクラスごと 幼児は合同で誕生会に保護者参加

③ 保護者会

全体の保護者会は4月と9月と1月、個別面談は5・6月と11月（0～4歳児）1月（5歳児）に実施。ひまわりの保育内容、子どもの姿・成長の発信を行なう。保護者の悩みや困りごとを把握し、子育ての協同に繋げる。

④ 通信（お便り）

- ・園便り・クラス便り（毎月発行）その他必要があれば不定期で発行。園便りは毎月の行事、園の保育方針を盛り込んだ園長のコラム、その他お願い等。クラス便りは、各クラスの子どもの姿・保育者の関わり・成長を記載。
- ・保健便り（毎月発行）流行しそうな子どもの感染症に関する情報や、こども達の生活（睡眠時間、虫歯、視力等）に関する情報を記載。園全体の感染症予防を啓蒙。
- ・食育便り（毎月発行）ひまわりの食にもとづく子どもの姿や考え方を掲載。その他郷土料理や人気のレシピなども公開。

⑤ 第三者評価の実施

第三者評価受審予定

6. 地域社会との連携

地域社会との連携に関する取り組み

近隣の認可、認証、認定こども園や小学校、キャナルコート内の学童、店舗等と連携をはかり、地域での子育て支援の拠点になる。育児講座や保育所体験等を企画し、子育て親子が足を運ぶ機会を増やして育児支援を行なうとともに、ひまわりキッズガーデン東雲の存在と保育内容を知っていただく。

7. その他

その他取り組み

体操指導を委託している株式会社コーディスポーツの「わくわく運動塾」に月2回土曜日に施設を貸し出している

ひまわりキッズガーデン豊洲 2025 年度事業計画

社会福祉法人ひまわり福祉会

1. 基本情報

(1) 所在地

東京都江東区豊洲四丁目 1 1 番 2 0 - 1 3 8 号

(2) 保育理念

身近な大人との愛着関係を基盤に、「受容性」から「好奇心・探求心」へ。
さらに「主体性」を持って成長する子を育みます。

(3) 保育方針

保育園に集うたくさんの親や子どもが、小さな社会体験と生活体験を重ねながら、地域の
一員として様々な人々と共に暮らす知恵と力を身につけます。
そのためにひまわりの保育園では「出会う」「見る」「聴く」「触る」「体験する」「語
り合う」「認め合う」場をつくります。

(4) 保育目標

和と輪と話を実践する子ども

2. 前年度振り返り・課題

(1) 利用者数

	利用定員	利用者数 (期首)	利用者数 (期末)	利用者数 増減 (期首～期末)	空き定員	対前年比 (利用者数 (期末))
全体	91 名	87 名	87 名	0 名	+4 名	+87 名
0 歳児	6 名	6 名	6 名	0 名	0 名	+6 名
1 歳児	13 名	13 名	13 名	0 名	0 名	+13 名
2 歳児	18 名	18 名	18 名	0 名	0 名	+18 名
3 歳児	18 名	17 名	17 名	0 名	+1 名	+17 名
4 歳児	18 名	16 名	15 名	▲1 名	+3 名	+15 名
5 歳児	18 名	17 名	18 名	+1 名	0 名	+18 名

(2) 職員数

	人数 (期首)	人数 (期末)	離職数	新規採用数	(内新卒採用数)
全体	23 名	24 名	2 名	2 名	(0 名)
園長	1 名	1 名	0 名	0 名	1 名
保育士	16 名	16 名	1 名	1 名	(0 名)
幼稚園教諭	0 名	0 名	0 名	0 名	(0 名)
看護師	1 名	1 名	0 名	0 名	(0 名)
保育補助	3 名	5 名	0 名	0 名	(0 名)
用務	0 名	0 名	1 名	1 名	(0 名)
事務	1 名	1 名	0 名	0 名	(0 名)

(3) 前年度目標と振り返り

① 保育活動

目標

- ・保育と歩育を結び付ける
- ・保護者に子どもの発達と働きかけ、“歩く”だけではない“歩育”を認識してもらう→子どもの体作り

振り返り・課題

- ・年度末に保護者に歩育についてのアンケートを回答してもらった。その中でも歩育についての効果(体作り・風邪をひかない・歩く体力がある等)の声が上がっている。地域に対してのアピールが今後の課題となっている。

② 職員の処遇

目標

- ・組織図を基にしたパートナー制度の実行→職員が迷わない・わからないままにしない体制作り。声を上げやすくする。

振り返り・課題

- ・職員からの声は上がりやすくなっている様子がある。
- ・人員不足により、話す時間の捻出が難しい。パートナー制度がうまく活かせていない。
- ・時間の取り方が課題。

③ 運営管理

目標

- ・手順やルールの特明確化
- ・地域に豊洲の保育の良さを知ってもらふ機会を作る

振り返り・課題

- ・誰でもわかるような手順を記録に残していった。わからない時に立ち返るものを作ってきたが、それを見直しや確認する仕組みがまだ作られていない。
- ・地域へのアピールは手段を考える必要性を感じている。見学者の入園率は高かったのて、見学者への働きかけを継続しながら、豊洲の良さを感ぜてもらふ機会を増やす方法を考えていく。

3. 施設運営

(1) 当年度目標

① 保育活動 全体

- ・子どもの発達を理解し、その姿に合わせた保育活動の展開
- ・地域活動を広げていく

① 保育活動（各組の保育目標）

担当	目標
0歳児	・安定した生活リズムと身近な大人との信頼関係をもとに、人との関わりを喜び、心身の健やかな成長を育む。 ・安心できる環境の中で、五感を使った体験を通し、身のまわりに対する興味や好奇心の芽生えを育む。
1歳児	・保育者との信頼関係の中で、心の安定を基盤とし、自我の芽生えを育む。 ・生活や遊びの中で五感を使い、心身の健やかな発達と、生活の基礎となる力を育む。
2歳児	・自己主張を十分に受け止めてもらい、安定して過ごす中で、自分でできた喜びを感じる。 ・大人に見守られながら意欲的に自分のことは自分でしようとする。 ・身近な大人や友達集団とともに体験を共有しながら、言葉を表出する心地良さを味わう。 ・生活や遊びの中で、体を動かすことを十分に楽しむ。
3歳児	・自己主張をしながらも、自分以外の人の気持ちにも気づいたり、相手の気持ちを受け入れようとする。 ・生活や遊びの中に期待や見通しを持ち、自分のことは自分でしようとする。 ・身近な大人や友達集団とともに体験を共有しながら、言葉を交わす心地良さを味わう。 ・生活や遊びの中で、全身を使って意欲的に活動する。

4 歳児	・十分に自己を発揮しながら、相手の思いを受け入れ、自分の気持ちを調整しようとする。 ・できることに喜びを感じながら、健康・安全など、生活に必要な習慣を身につける。 ・人の話に興味を持って聞いたり、自分の体験したことや思っていることを話し、言葉で伝える楽しさを味わう。 ・様々な遊びを通して全身を動かして遊ぶ楽しさを十分に味わう。課題に合わせて意識して身体を動かすようになる。
5 歳児	・一つの目的意識のもとに関係し合い、事態や場面に応じて相手の立場に立って相手を理解し、解決しようとする。互いの違いや良さを認め合いながら、目的に向って協力し、達成感や喜びを味わう。 ・身体や栄養、病気などに関心を持ち、健康や安全など生活に必要な基本的習慣や態度を身につけ、見通しを持って主体的に行動する。 ・体験したことや自分の思いを相手に分るように筋道立てて話す。状況に応じて声の大きさや話し方など、相手に合わせて話せるようになる。 ・運動や遊具・用具を使用した活動を通し、自己の身体像を確立し、自分の身体の隅々までコントロールするようになる。相手の動きに合わせ、少しずつ動きを予測しながら自分の動きを調整しようとする。

② 職員の処遇

- ・発達を理解した上での働きかけ
- ・歩育を通しての地域活動の充実

③ 運営管理

- ・園運営に対して参画意識を向上する
- ・役割を持って仕事に取り組む意欲を持つ

(2) 実施施策

① 保育活動

施策 1

歩育の効果を理解し(成功体験・保護者からの声)、子どもの姿に合わせての計画立案・実施)

施策 2

”子どもにとって” ”子どものために” を考えた保育活動の展開

② 職員の処遇

施策 1

職員一人ひとりの役割の明確化

施策 2

見通しを持って仕事ができるようにクラスの仕事、行事など、進捗の見える化

③ 運営管理

施策 1

- ・ 掲示板の有効活用 (歩育の様子の掲示等)

(3) 児童の処遇

①クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	備考
つき組	0歳	2名	6名	
ほし組	1歳	3名	13名	
そら組	2歳	3名	18名	
なみ組	3歳	1名	18名	
にじ組	4歳	1名	18名	要支援児2名
ひかり組	5歳	1名	17名	

②月別保育予定日数

4月・・・25日
5月・・・24日
6月・・・25日
7月・・・26日
8月・・・25日
9月・・・24日
10月・・・26日
11月・・・24日
12月・・・24日
1月・・・23日
2月・・・22日
3月・・・25日
合計・・・293日

(4) 健康管理

健康管理目標（全体）

子ども一人ひとりの発育・発達の個人差を考慮しながら、健康な生活習慣を身につけ、豊かな成長が遂げられるよう積極的に次の点に取り組みます。

i. 日常養護・健康管理

- ・連絡帳や朝の視診、保護者からの情報をもとに子どもの状態を観察
- ・登園時0歳児は園内で検温し、その日の健康状態を保護者保育士双方で確認しお預かりする。
- ・0歳児は月に2回、1歳以上は月1回の身体測定を行い子どもの発育及び発達状態を定期的に把握していく。

ii. 病気の予防と早期発見

- ・保育中に体調不良や怪我等が発生した場合には、その子どもの状態に応じて早期に保護者に連絡を行う。
- ・嘱託医をはじめ、医療関係機関や保健所との連携を必要に応じて行う
- ・朝や午睡明けの看護師による巡回
- ・睡眠表による睡眠チェックを行う
(0歳児5分おき、1～2歳児 10分おき、3～5歳児 15分おきに個別確認)

iii. 安全と事故防止

- ・家具は転倒防止器具を付ける。また、階段には折り返し先が見えるよう、2階と3階のおどり場には鏡をとりつけている。
- ・不審者対応として学校110番を設置
- ・園内各保育室に防犯カメラを設置

iv. 健康増進と保健指導

- ・0歳児は月に2回、満1歳以上は月に1回身長、体重測定を行うと共に、定期的に健康診断を行い保護者連絡ツールアプリにて保護者に連絡し、保護者が子どもの状態を理解し、日常生活に活用できるようにする。
- ・手洗い、うがい、トイレの使い方、歯の磨き方指導を行う

v. 環境衛生

- ・新型コロナウイルスを機に玄関前にアルコール消毒液を設置し、保護者は入室前に手指消毒を行う。また、子ども達は小さな子どもが口にする可能性も考え、アルカリ・酸性水で玩具等の洗浄を行っている。
- ・毎年、専門業者によるトイレクリーニングを行なっている。
- ・手洗後はペーパータオルを使用
- ・害虫駆除（年間2回）

年間保健行事

- ・内科健診 0歳児（月1回）、1歳児以上（年2回）
- ・耳鼻科健診 実施なし
- ・眼科健診 実施なし
- ・視力測定 4歳児・5歳児（看護師による簡易検査を年2回）
- ・歯科健診 全園児（年2回）
- ・尿検査 実施なし

(5) 年間行事

主な年間行事

- 4月 入園式・保護者会
- 5月 こどもの日、田植え遠足（4・5歳児）、個別面談
- 6月 個別面談
- 7月 七夕、1日特別保育（5歳児）
- 8月 プール・水遊び
- 9月 引き渡し避難訓練、稲刈り遠足（4・5歳親子）、乳児ふれあいデー
- 10月 親子遠足（3歳）
- 11月 運動会、乳児発表会・保護者会
- 12月 クリスマス会・もちつき
- 1月 個別面談（5歳児）、幼児発表会・保護者会
- 2月 節分、遠足（5歳児）、個別面談（0～4歳児）
- 3月 ひなまつり・おわかれ会・卒園式

(6) 食事

i. 目標

「丈夫な体・豊かな心を育む食経験を通して、自らの健康を育める子ども」
食は人間形成であり、人格形成である。乳幼児期にもっとも大切な栄養を豊かに摂取し、健康な身体作りをすると共に、食習慣を促し、生きる力の基礎を培う。

ii. 栄養管理

献立会議に参加すること、及び栄養摂取量表で確認する。

iii. 食育

食育は、毎日の生活と遊びの中で、自らの意欲を持って食に関わる体験を積み重ね、食べる事を楽しみ、食事を楽しみあう子どもに成長していく事を期待するものです。そのために乳幼児期には食域を広げ、子ども達の食への興味を引き出す事を食育の目的とし、毎日食育をベースに、企画する食育活動を加えて展開します。

iv. 衛生管理

- ・日々日常点検表と業務完了届を通して実施状況を確認する。
- ・オゾン発生器の設置
- ・各保育室空気清浄機の設置

v. 給与栄養目標（給食・おやつで摂りたい栄養量の目安）

	エネルギー kcal	蛋白質 g	脂質 g	カルシウム mg	鉄分 mg	ビタミンA μg	ビタミンB1 mg	ビタミンB2 mg	ビタミンC mg
3歳 未満児	465	17.5	15.5	213	2.0	188	0.20	0.28	18
3歳児 以上児	510	19.2	17.0	230	2.0	200	0.20	0.32	16

vi. その他

初期（2名）、中期（2名）、後期（2名）、完了（0名）
アレルギー児対応（3名）

(7) 安全管理

安全管理目標

交通安全や避難訓練について記述し、訓練日を記載します。

交通安全教育：年1～2回 日付は未定

非常災害時の避難訓練（毎月1回）

引き渡し訓練（9月1日）

不審者訓練 年1～2回 日付は未定

4. 施設管理

(1) 事務関係

① 会計事務、管理事務

- ・ 施設における現金の管理は経理規定に従って行なう。
- ・ 現金収支は小口現金出納帳をもとに管理を行なう。
- ・ 予算書・稟議書を作成、収支の把握と管理を行なう。

② 児童処遇事務（保育、給食、保健）

- ・ 毎月の収支は資金収支予算実績報告をもとに管理を行なう
- ・ 延長保育料金等については月末締め、支払金額を保育業務管理ソフト「コドモン」に反映、エンペイに連動させてキャッシュレス決済
- ・ 給食に関しては委託業者との契約を行い毎月の支払いとする。
- ・ 嘱託医への支払いは契約書をもとに行なう。

(2) 設備関係

① 固定遊具の設備点検

- ・固定遊具特になし

(3) 備品関係

① 備品購入予定

- ・特になし

② 保育用品購入予定

- ・絵本、玩具、体操服

③ 給食用品購入予定

- ・食器・調理器具

④ 固定資産物品購入予定

- ・予定なし

(4) 災害対策

① 避難訓練

- ・年間12回実施（保護者参加の引き渡し訓練を1回実施）

② 防災設備の点検委託

- ・年間2回実施 マンションの管理会社が管理・実施

③ 非常食糧の備蓄

- ・（全児童＋全職員数）×3食×3日分
- ・消費期限点検（3月実施）

5. 保護者へ向けて

保育への理解と協力の促進

① 保育参加

- ・保育の体験を通して、集団の中での子どもの様子を知り、保育内容への理解を深めてもらう機会とする。
- ・随時実施

② 誕生会への参加

- ・特になし

③ 保護者会

- ・ 4 月… 1 年間の運営の方針、保育計画、予定、子どもの育ちについて
- ・ 5 ～ 7 月 (個別面談) … 入園、進級し数カ月を過ぎた時点での家庭と保育園の情報交換
- ・ 1 1 月・ 1 月… 半年を経過しての子どもの様子、および今後の見通しについて
- ・ 1 月～ 2 月 (個別面談) … 就学・進級にむけての面談

④ 通信 (お便り)

園だより (月に 1 回) … 園全体や保健、乳幼児の食生活、地域に関わる情報などを発信する。

一時保育だより (月に 1 回) … 一時保育利用者に向けて園行事や育児情報を発信する

⑤ 第三者評価の実施

実施予定

6. 地域社会との連携

地域社会との連携に関する取り組み

姉妹園との交流

5 歳児と近隣の認可保育園 8 園との交流

5 歳児と学童クラブ、キッズクラブとの交流

地域のイベントへの参加 (豊洲ハロウィンフェスティバル、運河ルネッサンス協議会)

7. その他

その他取り組み

- ・ 0 歳児室床修繕
- ・ 玄関扉修繕
- ・ 排煙窓修繕
- ・ 非常灯バッテリー交換

ひまわりキッズガーデン志村 2025 年度事業計画

社会福祉法人ひまわり福祉会

1. 基本情報

(1) 所在地

東京都板橋区小豆沢一丁目12番6号 複合施設「ここから」1階

(2) 保育理念

身近な大人との愛着関係を基盤に、「受容性」から「好奇心・探求心」へ。
さらに「主体性」を持って成長する子を育みます。

(3) 保育方針

保育園に集うたくさんの親や子どもが、小さな社会体験と生活体験を重ねながら、地域の
一員として様々な人々と共に暮らす知恵と力を身につけます。
そのためにひまわりの保育園では「出会う」「見る」「聴く」「触る」「体験する」「語
り合う」「認め合う」場をつくります。

(4) 保育目標

和と輪と話を実践する子ども

2. 前年度振り返り・課題

(1) 利用者数

	利用定員	利用者数 (期首)	利用者数 (期末)	利用者数 増減 (期首～期末)	空き定員	対前年比 (利用者数 (期末))
全体	54名	54名	53名	▲1名	+1名	0名
0歳児	6名	6名	6名	0名	0名	+6名
1歳児	8名	8名	8名	0名	0名	+8名
2歳児	10名	10名	10名	0名	0名	+10名
3歳児	10名	10名	10名	0名	0名	+10名
4歳児	10名	10名	10名	0名	0名	+10名
5歳児	10名	10名	9名	▲1名	+1名	+9名

(2) 職員数

	人数 (期首)	人数 (期末)	離職数	新規採用数	(内新卒採用数)
全体	18 名	23 名	1 名	6 名	(0 名)
園長	1 名	1 名	0 名	0 名	(0 名)
保育士	14 名	15 名	1 名	2 名	(0 名)
幼稚園教諭	0 名	0 名	0 名	0 名	(0 名)
看護師	1 名	1 名	0 名	0 名	(0 名)
保育補助	1 名	4 名	0 名	3 名	(0 名)
用務	0 名	0 名	0 名	0 名	(0 名)
事務	1 名	2 名	0 名	1 名	(0 名)

(3) 前年度目標と振り返り

① 保育活動

目標

- ・職員がワクワクしながら環境設定や遊びを用意することで園児も明日の活動を楽しみに登園するようにする。
- ・在園家庭については、園舎開放や育児講座を通して、保育園のファンになり、他者に紹介して貰う。
- ・園舎解放や園見学で魅力を発信し、地域の方は入園申し込みまでにつなげる。

振り返り・課題

- ・職員が子どもの玩具を使って遊ぶワークを取り入れました。これにより、玩具の数や環境設定の仕方を見直し、環境を整えることができました。職員同士が昼礼の時間に話し合うことで、子ども達が保育園に来ることを楽しみにできるような環境を作り上げました。しかし、「明日来ることが楽しみになる」というゴールが抽象的であるため、具体的な達成感を感じにくいという課題がありました。
 - ・すくわくプログラムも活用し、卓球や食育活動・空手など様々な活動を行いました。また、園舎開放や育児講座などを通じて、地域の方にも保育園を知っていただく機会を作りました。その結果、入園希望者が昨年より増加し、定員も充足しました。保護者アンケートによれば、44%の方が保育園を知人に紹介したと答えており、今年度の取り組みの効果があつたと感じます。
- 「志村の魅力」の発信は今後も必要です。現在、職員と改めて話し合いを行い、みんなが同じゴールを目指せるようにしています。

② 職員の処遇

目標

- ・役割、仕組みの整理を行なう事で、情報の共有がしやすくなり風通しの良い職場とする。また、業務の整理が出来ることで無駄が省かれ、休日出勤や残業時間が減少する。

振り返り・課題

- ・会議体の整理や目的について年度の前半に話し合いを進めましたが、現状に合わない仕組みになってしまい、職員の負担感が増えてしまうこともありました。しかし、行動基準を基に、日々の保育におけるリーダー・サブの役割を話し合うことで、少しずつ職員が自身を振り返ることができるようになり、業務時間内に事務の時間を確保することができるようになりました。
- ・現状として、風通しの良い職場環境を完全に実現するには至っていません。相手の良さを認め合い、子どものために言いにくいことも伝え合える関係性を築くことが目標ですが、まだ職場全体での情報共有やコミュニケーションの向上が必要です。職員同士が毎日話し合う時間を作ることで、少しずつ自分の感情ではなくゴールに向かうための情報共有ができるようにはなってきましたが、さらに改善が必要です。

③ 運営管理

目標

- ・職員全員で「遊び」と「学び」の時間を作ることで子ども達にも体験させてあげたいというワクワクが生まれる(保育を楽しむ心がUP)
 - ・クラス会議に主任が参加し、主任会議で学んだ内容を伝え、クラス運営に関わる事で、各クラス担任の気付きが増える(リーダーシップ・フォロワーシップUP)
- 職員の年間研修計画を基にそれぞれがスキルアップを目指し、月に1度研修を受ける(目標管理シートに記載)※個々のスキルアップ

振り返り・課題

- ・職員全員で学びの時間を作る中で「志村の魅力とは何か？」を改めて考える時間を設けました。職員の100%が「複合施設の中にある保育園」と感じていたことから、複合施設でどんなことが出来るか、子どもの育ちにどのようなつながるかを話し合い、WEB図にして保育に展開しています。つながりを意識しながら保育を行うことで、職員の保育を楽しむ姿に少しずつつながってきています。
- ・今年度、事業部で行なってきた主任会議を通して主任に様々な気付きがありました。各クラスの会議の中で、学んだ内容を伝える機会を多く作れなかったのが課題としてありますが、主任だけでなく副主任もクラス運営に関わりサポートする体制は整えられたと感じます。
- ・月に1度の研修は難しかったですが、キャリアアップ研修などを活用しながら職員のスキルアップにつなげました。それぞれの学びを会議の中で共有する機会を設けることで、学びの共有の時間にもなりました。ただし、目標管理シートでの振り返りには個人差が大きいと、仕組みの工夫も必要と感じます。

3. 施設運営

(1) 当年度目標

① 保育活動 全体

- ・ 保育活動の質の向上と一貫性を図る。
- ・ 四世帯共生を通じて子どもたちの成長を促進し、地域との交流を深める。

① 保育活動（各組の保育目標）

担当	目標
0 歳児	・ 安定した生活リズムと身近な大人との信頼関係をもとに、人との関わりを喜び、心身の健やかな成長を育む ・ 安心できる環境の中で、五感を使った体験を通し、身のまわりに対する興味や好奇心の芽生えを育む
1 歳児	・ 保育者との信頼関係の中で、心の安定を基盤とし、自我の芽生えを育む ・ 生活や遊びの中で五感を使い、心身の健やかな発達と、生活の基礎となる力を育む
2 歳児	・ 自己主張を十分に受け止めてもらい、安定して過ごす中で、自分でできた喜びを感じる ・ 大人に見守られながら意欲的に自分のことは自分でしようとする ・ 身近な大人や友達集団とともに体験を共有しながら、言葉を表出する心地よさを味わう ・ 生活や遊びの中で、体を動かすことを十分に楽しむ
3 歳児	・ 自己主張しながらも、自分以外の人の気持ちにも気づいたり、相手の気持ちを受け入れようとする ・ 生活や遊びに期待や見通しを持ち、自分のことを自分でしようとする ・ 身近な大人や友達集団とともに体験を共有しながら、言葉を交わす心地よさを味わう ・ 生活や遊びの中で、全身を使って意欲的に活動する
4 歳児	・ 十分に自己を発揮しながら、相手の思いを受け入れ、自分の気持ちを調整しようとする ・ できることに喜びを感じながら、健康・安全など、生活に必要な習慣を身につける・人の話に興味を持って聞いたり、自分の体験したことや思っていることを話し、言葉で伝える楽しさを味わう ・ 様々な遊びを通して全身を動かして遊ぶ楽しさを十分に味わう。課題に合わせて意識して身体を動かすようになる

5 歳児	・一つの目的意識のもとに関係しあい、事態や場面に応じて相手の立場に立って相手を理解し、解決しようとする。互いの違いや良さを認め合いながら、目的に向かって協力し、達成感や喜びを味わう ・身体や栄養・病気などに関心を持ち、健康や安全など生活に必要な基本的習慣や態度を身につけ、見通しを持って主体的に活動する ・体験したことや自分の思いを相手に分かるように筋道立てて話す。状況に応じて声の大きさや話し方など、相手に合わせて話せるようになる ・運動や遊具・用具を使用した活動を通して、自己の身体像を確立し、自分の身体の隅々までコントロールするようになる。相手の動きに合わせて、少しずつ動きを予測しながら自分の動きを調整しようとする
------	--

② 職員の処遇

- ・職員の能力向上と一体感の醸成。
- ・職員の協力体制を強化し、働きやすい環境を整える。

③ 運営管理

- ・運営管理の効率化と標準化。また、地域コミュニティの拡大を目指す。

(2) 実施施策

① 保育活動

施策 1

- ・毎月第1週水曜日の主任会議で、各年齢の月案を基にして知性・人間関係・身体能力・生活習慣の4つの視点を定める。そして、第1週の金曜日に3園合同職員会議を実施し、主任会議の内容を職員に共有する。主任は、4つの視点をどのように定めたかを説明し、具体的な活動内容を深める。その内容を基に交換研修を行なう。また、乳幼児会議にて月間の活動内容を決定し、それを保護者へ発信する。月末には振り返りを行い、その結果も保護者へ発信する。

施策 2

- ・複合施設のハード面を活用して、保育活動を充実させる。例えば、高齢者施設のスペースを使った共同活動や、施設内での多世代交流イベントの実施。日々の交流を通じて、子どもたちが多世代の中で成長し、社会性や協力する姿勢を育む。また、地域の方々に施設の魅力を発信し、園見学やイベントに積極的に参加してもらうよう働きかける。

② 職員の処遇

施策 1

・主任会議を基にした具体的な活動のプロセスを知ること、職員が保育に対する気付きを得られるようにする。また、クラス会議や乳幼児会議を通して、個別の配慮や日々の保育についての振り返り、行事の進め方を共有し、職員間の情報共有と連携を強化。

施策 2

・高齢者施設スタッフとの意思疎通を円滑にし、協力体制を確立するための定期的な連絡会議や研修を実施。職員間の情報共有を促進し、共通の目標に向かって協力し合う環境を整える。

③ 運営管理

施策 1

会議体の標準化と統一化を図り、効果的なマネジメントを実現。

施策 2

・縦長長屋という施設内での地域コミュニティを構築。日常的な交流やイベントを通じて地域との結びつきを強め、地域コミュニティの活性化を図る。地域の方々が施設に興味を持ち、園見学やイベントに積極的に参加してもらえるよう、広報活動を強化する。

(3) 児童の処遇

①クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	備考
もも	0歳児	2名	6名	
たんぽぽ	1歳児	2名	8名	
ちゅうりっぷ	2歳児	2名	10名	
すみれ	3歳児	1名	10名	
ゆり	4歳児	1名	10名	
ひまわり	5歳児	1名	10名	要支援児1名

②月別保育予定日数

4月・・・25日
5月・・・24日
6月・・・25日
7月・・・26日
8月・・・25日

9月・・・24日
10月・・・26日
11月・・・23日
12月・・・24日
1月・・・23日
2月・・・22日
3月・・・25日
合計・・・292日

(4) 健康管理

健康管理目標（全体）

子ども一人ひとりの発育・発達の個人差を考慮しながら、健康な生活習慣を身につけ、豊かな成長が遂げられるよう積極的に次の点に取り組みます。

i. 日常養護・健康管理

- ・ コドモンアプリにて個々の健康観察と管理
- ・ 看護師による日々の巡回と子どもの視診を定期的に行い健康状況の把握を行う

ii. 病気の予防と早期発見

- ・ 園の玄関にて、アルコール溶剤を置き来訪者が除菌、消毒してから入室できるようにしている。
- ・ 感染症が発症した際には掲示等で保護者に知らせ注意を促す。
- ・ 予防接種の呼びかけを行い、事前に感染拡大を防止する。

iii. 安全と事故防止

- ・ 学校110番の設置。
- ・ 家具等は転倒防止具をつける。柱、角の部分には保護ガードをつける。
- ・ 事故防止マニュアルを作成し安全策を図る。
- ・ SIDSの防止（午睡時睡眠チェック 0歳児：5分間隔、1～2歳児：10分間隔、3～5歳児：15分間隔）
- ・ 安全対策・記録カメラを設置し、午睡等の安全対策を強化する。

iv. 健康増進と保健指導

- ・ 保健便りを毎月発行し、健康情報や保健指導を行なう。
- ・ 年間保険計画に基づく看護師による保健指導を行なう。
- ・ 全園児毎月1回、身長・体重測定と共に、定期的な健康診断を行い、連絡用アプリにて保護者に連絡し、子どもの状態を理解できるようにしている。

v. 環境衛生

- ・ 害虫駆除は年2回業者に委託。
- ・ 午睡用の布団は、丸洗いを定期的を実施。
- ・ 園舎内、トイレ清掃については電解水を使用しマニュアルに沿って行なう。
- ・ 遊具、玩具の消毒については定期的に行い、0歳児用は1日2回以上行なう。
- ・ 感染症流行期には電解水を用いて室内の消毒を行なう。
- ・ 年に1回、トイレクリーニング・コーティングを実施。
- ・ オゾン発生装置、空気清浄機を設置。

年間保健行事

- ・ 内科健診 0歳児（月1回）・1歳児以上（年2回）
- ・ 耳鼻科健診 実施なし
- ・ 眼科健診 実施なし
- ・ 視力検査 実施なし
- ・ 歯科健診 全園児年2回
- ・ 尿検査 実施なし

(5) 年間行事

主な年間行事

- 4月 入園進級お祝い会・保護者会・子どもの日の集い
- 5月 田植え遠足（5歳児親子）・ここから祭り
- 6月 個別面談（全園児）、農業体験（5歳児）
- 7月 七夕・農業体験（5歳児）・一日特別保育(5歳児)
- 8月 卒園児交流
- 9月 引渡し訓練・稲刈り遠足（5歳児親子）・祖父母交流会・保護者会
- 10月 さつま芋掘り（5歳児）・運動会
- 11月 個別面談（0～4歳）・作品展
- 12月 クリスマス会・餅つき会
- 1月 個別面談（5歳）・おゆうぎ会
- 2月 節分・保護者会（0～5歳）
- 3月 ひなまつり・お別れ遠足・お別れ会・卒園式

(6) 食事

i. 目標

「丈夫な体・豊かな心を育む食経験を通して、自らの健康を育める子ども」食は人間形成であり、人格形成である。乳幼児期にもっとも大切な栄養を豊かに摂取し、健康な身体作りをすると共に、食習慣を促し、生きる力の基礎を培う。

ii. 栄養管理

献立会議に参加すること、及び栄養摂取量表で確認する。

iii. 食育

食育は、毎日の生活と遊びの中で、自らの意欲を持って食に関わる体験を積み重ね、食べることを楽しみ、食事を楽しみあう子どもに成長していくことを期待するものです。そのために乳幼児期には職域を広げ、子どもの達の食への興味を引き出すことを食育の目的とし毎日食育をベースに、企画する食育活動を加えて展開します。
食育会議を毎月開催。

iv. 衛生管理

日々日常点検表と業務完了届けを通して実施状況を確認する。

v. 給与栄養目標（給食・おやつで摂りたい栄養量の目安）

	エネルギー kcal	蛋白質 g	脂質 g	カルシウム mg	鉄分 mg	ビタミンA μ g	ビタミンB1 mg	ビタミンB2 mg	ビタミンC mg
3歳 未満児	475	17.8	15.8	213	2.3	188	0.25	0.28	20
3歳児 以上児	520	19.2	17.3	230	2.2	190	0.28	0.32	20

vi. その他

離乳食 初期食 2名 中期食 1名 後期食 2名 アレルギー児対応 5名

(7) 安全管理

安全管理目標

- ・交通安全や避難訓練について記述し、訓練日を記載します。
- ・交通安全教育（4月、9月）
- ・非常災害時の避難訓練（月1回）
- ・引き渡し訓練（9月1日）

4. 施設管理

(1) 事務関係

① 会計事務、管理事務

- ・施設における現金の管理は経理規定に従って行なう。
- ・現金収支は小口現金出納帳をもとに管理を行なう。
- ・予算書・稟議書を作成、収支の把握と管理を行なう。

② 児童処遇事務（保育、給食、保健）

- ・毎月の収支は資金収支予算実績報告をもとに管理を行なう
- ・延長保育利用料金等については月末締め、支払金額を保育業務管理ソフト「コドモン」に反映、エンペイに連動させてキャッシュレス決済。
- ・給食に関しては委託業者との契約を行い毎月の支払いとする。
- ・嘱託医への支払いは契約書をもとに行なう。

(2) 設備関係

① 固定遊具の設備点検

- ・固定遊具特になし

(3) 備品関係

① 備品購入予定

- ・特になし

② 保育用品購入予定

- ・絵本、紙芝居、玩具、運動用品、保育材料等

③ 給食用品購入予定

- ・食具、調理器具等

④ 固定資産物品購入予定

- ・エアコン入れ替え・顔認証システム導入（玄関）・扇風機入れ替え

(4) 災害対策

① 避難訓練

- ・年間 12回実施（年2回 建物全体 合同訓練実施）

② 防災設備の点検委託

- ・年間 2 回実施 (9 月、3 月)

③ 非常食糧の備蓄

- ・ (全児童 + 全職員数) × 3 食 × 3 日分
- ・ 備蓄品の点検と追加購入

5. 保護者へ向けて

保育への理解と協力の促進

① 保育参加

- ・ 子ども達が園でどのような生活を送っているのか、またクラス全体の様子なども知ってもらう
- ・ 開催 2 週間前から、クラス前に掲示し、記名してもらう。
- ・ 年 2 回 (5・11 月)、期間を設けているが、基本的には随時。

② 誕生会への参加

- ・ 特になし

③ 保護者会

- ・ 保護者懇談会 (年 3 回程度実施)・・・園の保育の理解、子どもの姿、発達を知る。
- ・ 個別面談の実施 (年 2 回程度)・・・子どもの様子、家庭での様子、子育て観の共有

④ 通信 (お便り)

毎月発行するものとして園便り・各クラスお便り・ほけん便り、月 1 回給食便り、その他行事毎に発行。

⑤ 第三者評価の実施

第三者評価受審予定

6. 地域社会との連携

地域社会との連携に関する取り組み

- ・ 町会への加入
- ・ 小学校との連携 (年 2 回)
- ・ あいキッズとの連携
- ・ 就学を控えた 5 歳児の学校訪問、交流会への参加
- ・ 要保護児童対策地域協議会への出席

7. その他

その他取り組み

特になし

ひまわりキッズガーデン有明 2025 年度事業計画

社会福祉法人ひまわり福祉会

1. 基本情報

(1) 所在地

東京都江東区有明一丁目4番11号

(2) 保育理念

身近な大人との愛着関係を基盤に、「受容性」から「好奇心・探求心」へ。
さらに「主体性」を持って成長する子を育みます。

(3) 保育方針

保育園に集うたくさんの親や子どもが、小さな社会体験と生活体験を重ねながら、地域の
一員として様々な人々と共に暮らす知恵と力を身につけます。
そのためにひまわりの保育園では「出会う」「見る」「聴く」「触る」「体験する」「語
り合う」「認め合う」場をつくります。

(4) 保育目標

和と輪と話を実践する子ども

2. 前年度振り返り・課題

(1) 利用者数

	利用定員	利用者数 (期首)	利用者数 (期末)	利用者数 増減 (期首～期末)	空き定員	対前年比 (利用者数 (期末))
全体	110 名	102 名	102 名	0 名	+8 名	▲6 名
0 歳児	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名
1 歳児	20 名	20 名	20 名	0 名	0 名	+20 名
2 歳児	24 名	23 名	24 名	+1 名	0 名	+24 名
3 歳児	24 名	22 名	20 名	▲2 名	+4 名	+20 名
4 歳児	24 名	21 名	21 名	0 名	+3 名	+21 名
5 歳児	18 名	16 名	17 名	+1 名	+1 名	+17 名

(2) 職員数

	人数 (期首)	人数 (期末)	離職数	新規採用数	(内新卒採用数)
全体	22 名	22 名	2 名	5 名	(0 名)
園長	1 名	1 名	0 名	0 名	(0 名)
保育士	14 名	14 名	1 名	4 名	(1 名)
幼稚園教諭	0 名	0 名	0 名	0 名	(0 名)
看護師	1 名	0 名	1 名	0 名	(0 名)
保育補助	4 名	5 名	0 名	1 名	(0 名)
用務	1 名	1 名	0 名	0 名	(0 名)
事務	1 名	1 名	0 名	0 名	(0 名)

(3) 前年度目標と振り返り

① 保育活動

目標

年齢に合わせた子どもたちの発達を促す
地域への情報発信
一時保育の獲得

振り返り・課題

子どもたちの意欲を育てる活動に取り組むように取り組んできた1年であった。子どもたちの姿としては、様々な体験活動を通して意欲が持てるようになってきている様子も見られているが、現状数値として測れていない点がある。地域への情報発信の面では、まだまだポスターなど今の時代にあっていないツールでの発信に留まっており、新たな取り組みを考えていかなくてはならないと感じている。一時保育の面に関しては、幼稚園に入るまでの繋ぎであったり、幼稚園が休みの時の受け入れ先というレベル感なので、地域のニーズが本当に一時保育にあるのかが疑問である。今後は新たな事業展開に向けて考えていく必要がある。

② 職員の処遇

目標

職員のやりがいを増やす
職員のスキル向上

振り返り・課題

職員のやりがい、意欲を育てることが今年度の取り組みとして一番大きなものであった。「やりたい」「工夫したい」と思えるための意欲を育てるために、チームの中で何でも話し合える風土を作ってきているが、正規職員とパート職員との壁もまだまだ見られている。パートの先生たちの特技を活かして保育活動を展開していく仕組みが必要になってきている。

③ 運営管理

目標

ビジョンの浸透
園運営の仕組みづくり

振り返り・課題

正規職員全体には、意欲を育む活動を子どもたちに展開することを、今年1年語り続けてきたことで少しずつ浸透している姿が見られている。パート職員が園全体の半数を超えてきているので、パート職員にビジョンを浸透していくための仕組みが必要になってきている。マニュアルの整備や行動基準などは、クラスごとに進められるようになってきているが、行動基準通りに動くことも難しい職員がみられている。個々の能力を高めていくための取り組みを次年度は取り入れていきたい。

3. 施設運営

(1) 当年度目標

① 保育活動 全体

地域活動の充実
地域への情報発信
年齢に合わせた活動の展開

① 保育活動（各組の保育目標）

担当	目標
1 歳児	・ 保育者との信頼関係の中で、心の安定を基盤とし、自我の芽生えを育む。 ・ 生活や遊びの中で五感を使い、心身の健やかな発達と、生活の基礎となる力を育む。
2 歳児	・ 自己主張を十分に受け止めてもらい、安定して過ごす中で、自分でできた喜びを感じる。 ・ 大人に見守られながら意欲的に自分のことを自分でしようとする。 ・ 身近な大人や友達集団とともに体験を共有しながら、言葉を表出する心地よさを味わう。 ・ 生活や遊びの中で、身体を動かすことを十分に楽しむ。
3 歳児	・ 自己主張しながらも、自分以外の人の気持ちにも気づいたり、相手の気持ちを受け入れようとする。 ・ 生活や遊びに期待や見通しを持ち、自分のことを自分でしようとする。 ・ 身近な大人や友達集団とともに体験を共有しながら、言葉を交わす心地よさを味わう。 ・ 生活や遊びの中で、全身を使って意欲的に活動する。
4 歳児	・ 十分に自己を発揮しながら、相手の思いを受け入れ、自分の気持ちを調整しようとする。 ・ できることに喜びを感じながら、健康・安全など、生活に必要な習慣を身につける。 ・ 人の話に興味を持って聞いたり、自分の体験したことや思っていることを話し、言葉で伝える楽しさを味わう。 ・ 様々な遊びを通して全身を動かして遊ぶ楽しさを十分に味わう。課題に合わせて意識して身体を動かすようになる。
5 歳児	・ 一つの目的意識のもとに関係しあい、事態や場面に応じて相手の立場に立って相手を理解し、解決しようとする。互いの違いや良さを認め合いながら、目的に向かって協力し、達成感や喜びを味わう。 ・ 身体や栄養・病気などに関心を持ち、健康や安全など生活に必要な基本的習慣や態度を身につけ、見通しを持って主体的に活動する。 ・ 体験したことや自分の思いを相手に分かるように筋道立てて話す。状況に応じて声の大きさや話し方など、相手に合わせて話せるようになる。 ・ 運動や遊具・用具を使用した活動を通して、自己の身体像を確立し、自分の身体の隅々までコントロールするようになる。相手の動きに合わせて、少しずつ動きを予測しながら自分の動きを調整しようとする。

② 職員の処遇

保育能力の向上

③ 運営管理

ビジョンの浸透
園運営への参画意識の向上

(2) 実施施策

① 保育活動

施策 1

毎週木曜日に定期的な地域活動の実施

施策 2

SNS 等を活用した地域活動の発信

施策 3

子どもたちの年齢、興味に合わせた活動を日々の保育の中で展開

② 職員の処遇

施策 1

自分が身に着きたい能力を今年 1 年で身につける

施策 2

それぞれの得意を活かした保育活動を展開

③ 運営管理

施策 1

自分のなりたい姿を明確にし、目標に向けての活動を展開

(3) 児童の処遇

① クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	備考
ほし	1 歳児	4 名	2 0 名	
そら	2 歳児	4 名	1 9 名	
なみ	3 歳児	2 名	2 2 名	
にじ	4 歳児	1 名	2 2 名	要支援児 1 名
ひかり	5 歳児	1 名	2 1 名	要支援児 1 名

②月別保育予定日数

4月	・・・	25日
5月	・・・	24日
6月	・・・	25日
7月	・・・	26日
8月	・・・	25日
9月	・・・	24日
10月	・・・	26日
11月	・・・	24日
12月	・・・	24日
1月	・・・	23日
2月	・・・	22日
3月	・・・	25日
合計	・・・	293日

(4) 健康管理

健康管理目標（全体）

子ども一人ひとりの発育・発達の個人差を考慮しながら、健康な生活習慣を身につけ、豊かな成長が遂げられるよう積極的に次の点に取り組みます。

i. 日常養護・健康管理

- ・ 連絡用アプリや登園時の視診、保護者からの情報をもとに子どもの状態を把握する。
- ・ 午睡後の検温、看護師による巡回で子どもの体調変化を把握する。
- ・ 子どもの様子を共有する、職員間の引継ぎを行う。

ii. 病気の予防と早期発見

- ・ 職員、子どもの手洗い、うがいの励行と健康指導を行う。
- ・ 予防接種の呼びかけを行い、事前に感染拡大を防止する。
- ・ 感染症発生時は、掲示等による保護者への迅速な周知と感染拡大を防止する。
- ・ 玄関での手指消毒を実施する。（アルコールの設置）
- ・ 乳幼児突然死症候群（SIDS）防止策を遵守する。

（睡眠表による睡眠チェックを行う）

1～2歳児 10分おき、3～5歳児 15分おきに個別確認

iii. 安全と事故防止

- ・ 学校110番を設置する。
- ・ 玄関ドアの常時施錠し、来訪者はモニター確認後に解錠し自動施錠する。
- ・ 津波避難対策としてのマンション上層階への避難経路確保と訓練を行う。
- ・ 園内各保育室に防犯カメラを設置

iv. 健康増進と保健指導

- ・ 各種おたよりによる、健康増進につながる情報を発信する
- ・ 全園児毎月1回、身長・体重測定と共に、定期的な健康診断を行い連絡用アプリにて保護者に連絡し、こどもの状態を理解できるようにしている。
- ・ 年間保健計画に基づく看護師による保健指導を行う。

v. 環境衛生

- ・ 毎日保育室や玩具を安全な電解水（アルカリ水・酸性水）で清掃と消毒を行う
- ・ タオル等の共有をせず、使い捨てペーパータオルを使用する。
- ・ 害虫駆除（年2回）
- ・ 毎年、専門業者によるトイレクリーニング、エアコンクリーニングを実施する
- ・ 室内の除菌、脱臭にオゾン発生器を1台と空気清浄機を各部屋に設置している

年間保健行事

- ・ 内科検診：1歳児以上（年2回）
- ・ 耳鼻科健診：実施なし
- ・ 眼科健診：実施なし
- ・ 視力検査：4歳児・5歳児（看護師による簡易検査を年2回）
- ・ 歯科健診：全園児（年2回）
- ・ 尿検査：実施なし

(5) 年間行事

主な年間行事

- 4月・・・入園式、保護者会
- 5月・・・こどもの日、個別面談、田植え遠足
- 6月・・・個別面談、乳児触れ合いデー
- 7月・・・七夕、一日特別保育（5歳児）
- 8月・・・プール・水遊び
- 9月・・・親子稲刈り遠足（4，5歳児）、引き渡し訓練
- 10月・・・3歳児親子遠足
- 11月・・・運動会
- 12月・・・乳児発表会・保護者会、5歳児個別面談、クリスマス、餅つき（鏡餅づくり）
- 1月・・・幼児発表会・保護者会
- 2月・・・節分、個別面談（1歳児～4歳児）、遠足（5歳児）
- 3月・・・ひなまつり、お別れ会、卒園式

(6) 食事

i. 目標

丈夫な体・豊かな心を育む食体験を通して、自らの健康を育める子ども
「食」は人間形成であり、人格形成である。乳幼児期に最も大切な「栄養」を豊かに摂取し、健康は体づくりをすると共に、食習慣の獲得を促し、生きる力の基礎を培います。

ii. 栄養管理

献立会議への参加、及び栄養摂取管理表での確認を行います。

iii. 食育

丈夫な体・豊かな心を育む食経験を通して、自らの健康を育める子ども
「食」は人間形成であり、人格形成です。乳幼児期に最も大切な「栄養」を豊かに摂取し、健康な身体づくりをすると共に、食習慣の獲得を促し、生きる力の基礎を培います。

ひまわりの保育園では、この考え方を元に、食育活動を行っていきます。私たちは、保育園で生活するこの乳幼児期に食域を広げ、子ども自身が毎日の食事で身体と心の栄養を補い、五感を使って食事の時間を楽しむことを食育の目的としています。

iv. 衛生管理

日々、日常点検表と業務完了届を通じて実施状況を確認します。

v. 給与栄養目標（給食・おやつで摂りたい栄養量の目安）

	エネルギー	蛋白質	脂質	カルシウム	鉄分	ビタミンA	ビタミンB1	ビタミンB2	ビタミンC
	kcal	g	g	mg	mg	μg	mg	mg	mg
3歳未満児	465	17.5	15.5	213	2.3	188	0.25	0.28	20
3歳児以上児	510	19.2	17.0	230	2.2	190	0.28	0.32	20

vi. その他

アレルギー食対応児：1名

(7) 安全管理

安全管理目標

- ・ 非常災害時の避難訓練（毎月 1 回）
- ・ 引き渡し訓練（9 月）

4. 施設管理

(1) 事務関係

① 会計事務、管理事務

- ・ 施設における現金は経理規定に沿って管理を行なう
- ・ 現金収支は小口現金出納帳をもとに管理を行なう
- ・ 予算書・稟議書を作成、収支の把握と管理を行なう

② 児童処遇事務（保育、給食、保健）

- ・ 毎月の収支は資金収支予算実績報告をもとに管理を行なう
- ・ 延長保育利用料金等については月末締め、支払金額を保育業務管理ソフト「コドモン」にて反映、エンペイに連動させてキャッシュレス決済
- ・ 給食に関しては委託事業者と契約を行い毎月の支払とする
- ・ 嘱託医への支払いは契約書をもとに行う

(2) 設備関係

① 固定遊具の設備点検

- ・ 固定遊具特になし

(3) 備品関係

① 備品購入予定

- ・ 机購入

② 保育用品購入予定

- ・ 絵本、玩具、運動用品、保育材料等

③ 給食用品購入予定

- ・ 食器、食具、調理器具等

④ 固定資産物品購入予定

- ・ エアコン入れ替え

(4) 災害対策

① 避難訓練

- ・ 年間12回実施、うち 保護者参加の引き渡し訓練1回実施

② 防災設備の点検委託

- ・ 年間2回実施・マンション管理会社が管理施行

③ 非常食糧の備蓄

- ・ (全児童+全職員数) × 3食 × 3日分 + α 消費期限点検 (9月実施)

5. 保護者へ向けて

保育への理解と協力の促進

① 保育参加

保育の体験を通して、集団の中での子どもの様子を知り、保育内容への理解を深めて貰う機会とする

② 誕生会への参加

子どもの誕生月に開催される誕生会に参加し、子どもの成長と保護者の育児への労いをする機会とする

③ 保護者会

- 4月…1年間の園運営、保育計画、予定、子どもの育ちについて
- 6月…個別面談にて3カ月過ぎた時点での家庭と保育園の情報交換
- 11月…半年を経過しての子どもの様子、および今後の見通しなど
- 1月…進級や小学校就学に向けての面談

④ 通信 (お便り)

園だより (月1回) ……園全体や地域に関わる情報、保健に関する情報を発信する。
給食だより (月1回) ……乳幼児期の食生活について園との家庭の架け橋となる内容を発信する

⑤ 第三者評価の実施

- 第三者評価実施予定

6. 地域社会との連携

地域社会との連携に関する取り組み

- 姉妹園との交流会
- 地域のイベントへの参加（有明ガーデン点灯式、有明サンタなど）

7. その他

その他取り組み

- LED 入れ替え工事
- エアコン入れ替え工事

ひまわりキッズガーデン有明の森 2025 年度事業計画

社会福祉法人ひまわり福祉会

1. 基本情報

(1) 所在地

東京都江東区有明一丁目4番20号

(2) 保育理念

身近な大人との愛着関係を基盤に、「受容性」から「好奇心・探求心」へ。
さらに「主体性」を持って成長する子を育みます。

(3) 保育方針

保育園に集うたくさんの親や子どもが、小さな社会体験と生活体験を重ねながら、地域の
一員として様々な人々と共に暮らす知恵と力を身につけます。
そのためにひまわりの保育園では「出会う」「見る」「聴く」「触る」「体験する」「語
り合う」「認め合う」場をつくります。

(4) 保育目標

和と輪と話を実践する子ども

2. 前年度振り返り・課題

(1) 利用者数

	利用定員	利用者数 (期首)	利用者数 (期末)	利用者数 増減 (期首～期末)	空き定員	対前年比 (利用者数 (期末))
全体	109名	104名	105名	+1名	+4名	▲1名
0歳児	6名	6名	6名	0名	0名	+6名
1歳児	15名	15名	15名	0名	0名	+15名
2歳児	20名	19名	21名	+2名	▲1名	+21名
3歳児	20名	19名	17名	▲2名	+3名	+17名
4歳児	24名	22名	22名	0名	+2名	+22名
5歳児	24名	23名	24名	+1名	0名	+24名

(2) 職員数

	人数 (期首)	人数 (期末)	離職数	新規採用数	(内新卒採用数)
全体	20名	24名	4名	8名	(1名)
園長	1名	1名	0名	0名	(0名)
保育士	12名	14名	2名	2名	(1名)
幼稚園教諭	0名	0名	0名	0名	(0名)
看護師	1名	1名	0名	0名	(0名)
保育補助	6名	7名	1名	3名	(0名)
用務	0名	1名	1名	2名	(0名)
事務	1名	1名	0名	1名	(0名)

(3) 前年度目標と振り返り

① 保育活動

目標

時代とともに利用者のニーズも生活スタイルも変化している。現在の保育状況で子どもたちの育ちを支えられるか、保護者が望む子育て施設になっているか。まずは職員が個々に考えている保育所の認識をアップデートする。

振り返り・課題

変化についての認識のズレや温度差が職員間で大きい事がわかった。特に人的環境の機嫌の良い関係を築くための【言葉】の部分では、残念ながら相手によって対応を変える職員もいる。本人がそのことを認識していないため、保護者からのクレームや、同僚からも信頼を得ることができない。原点に立ち返り、職員が行動の基準に保育方針・保育目標を自分の言葉で語れるよう、次年度の課題とする。

② 職員の処遇

目標

乳児会議・幼児会議や、キャリアアップ研修を通して、保育力のアップデート及び、専門分野の知識をひろげ、自らの処遇改善に努める。

振り返り・課題

年度当初計画的にキャリアアップ研修の申し込みが完了してなかったことと、受講したい研修が予定月に実施されていなかった事もあり、キャリアアップ研修の受講が計画通り受講できなかった。またキャリアアップ研修の数も多く、職員もどの研修に参加するか決められない様子もあり、計画的に行う為には、ある程度、受講する研修を選択しておく必要があった。また受講した研修の研修報告を行う時間を十分に確保できていなかった為、次年度は受講研修をアウトプットする場を設ける。

③ 運営管理

目標

園舎内も修繕箇所が発生しており、予算を管理しつつ最優先箇所より、計画的に修繕に着手する。

江東区の定員の利用調整を利用し、公定価格を考慮しつつ実質の定員減を行う。

保護者との情報共有に重点をおき、コミュニケーションをはかり信頼構築を行う。

振り返り・課題

園舎内の修繕については、全体の点検箇所等前任との引き継ぎ等が十分でなかった為、予算を組まれていたものの、実際行った修繕に差異が生じた。年に一度事業者メンテナンスを依頼すれば、清潔や安全が担保できるものではなく、日常の園舎の使い方や、清掃の在り方を考えた1年となりました。当初は残念ながら職員にも室内環境の整備の意識が低く、その時自分が使えれば良いと、至る所にテープを貼ったり、使い終わってもそのまま放置されている事も少なくありませんでしたが、少しずつ改善されつつある。江東区の利用調整を活用して、認可定員117名を109名に変更したが、今年度の在園児数は船体で105名と4名マイナスで1年を終わった。2歳児クラスは20名の利用調整のところ、最終的に21名の入所になったが、他のクラスはおおむね予定通りだった。次年度は更に利用調整で定員減をはかりたい。

3. 施設運営

(1) 当年度目標

① 保育活動 全体

時代とともに利用者のニーズも生活スタイルも変化している。現在の子どもたちの心身の成長状況や、生活環境を考慮し、保育環境や保育内容（保育者の関わり）は、現状で良いのかどうかを、確認、改善、実行する。

① 保育活動（各組の保育目標）

担当	目標
0 歳児	・ 安定した生活リズムと身近な大人との信頼関係をもとに、人との関わりを喜び、心身の健やかな成長を育む ・ 安心できる環境の中で、五感を使った体験を通し、身のまわりに対する興味や好奇心の芽生えを育む
1 歳児	・ 保育者との信頼関係の中で、心の安定を基盤とし、自我の芽生えを育む ・ 生活や遊びの中で五感を使い、心身の健やかな発達と、生活の基礎となる力を育む
2 歳児	・ 自己主張を十分に受け止めてもらい、安定して過ごす中で、自分でできた喜びを感じる ・ 大人に見守られながら意欲的に自分のことを自分でしようとする ・ 身近な大人や友達集団とともに体験を共有しながら、言葉を表出する心地よさを味わう ・ 生活や遊びの中で、体を動かすことを十分に楽しむ
3 歳児	・ 自己主張しながらも、自分以外の人の気持ちにも気づいたり、相手の気持ちを受け入れようとする ・ 生活や遊びに期待や見通しを持ち、自分のことを自分でしようとする ・ 身近な大人や友達集団とともに体験を共有しながら、言葉を交わす心地よさを味わう ・ 生活や遊びの中で、全身を使って意欲的に活動する
4 歳児	・ 十分に自己を発揮しながら、相手の思いを受け入れ、自分の気持ちを調整しようとする ・ できることに喜びを感じながら、健康・安全など、生活に必要な習慣を身につける ・ 人の話に興味を持って聞いたり、自分の体験したことや思っていることを話し、言葉で伝える楽しさを味わう ・ 様々な遊びを通して全身を動かして遊ぶ楽しさを十分に味わう。課題に合わせて意識して身体を動かすようになる
5 歳児	・ 一つの目的意識のもとに関係しあい、事態や場面に応じて相手の立場に立って相手を理解し、解決しようとする。互いの違いや良さを認め合いながら、目的に向かって協力し、達成感や喜びを味わう ・ 身体や栄養・病気などに関心を持ち、健康や安全など生活に必要な基本的習慣や態度を身につけ、見通しを持って主体的に活動する

	・体験したことや自分の思いを相手に分かるように筋道立てて話す。状況に応じて声の大きさや話し方など、相手に合わせて話せるようになる ・運動や遊具・用具を使用した活動を通して、自己の身体像を確立し、自分の身体の隅々までコントロールするようになる。相手の動きに合わせて、少しずつ動きを予測しながら自分の動きを調整しようとする
--	--

② 職員の処遇

保育力向上

③ 運営管理

職員（非常勤職員含む）の運営への参画・ビジョンの浸透

(2) 実施施策

① 保育活動

施策 1

子ども達が身近な世界に、興味・関心・疑問を示す環境を大切にします。整理整頓されていない環境では、見てほしい、気がついてほしい【モノ】が見えない。興味や関心を感じる世界を子どもたちに示す。はじめから正解を教えるのではなく、常識を覆すような言動を工夫して子どもたちを「異化」する。年齢ごとに差は生じるが、何をしても OK な、自分でやってみるという、挑戦と自由をどこまで身近な大人が担保できるかが、カギとなる。

② 職員の処遇

施策 1

機嫌の良い人間関係（人的環境）

職場内での機嫌の良い関係の構築こそが、職場内の働きやすい環境に直結すると思われる。どんな仕事でも自分の役割を責任をもって行う事とあわせて、お互いの自身の感情をコントロールし、機嫌の良い人間関係を構築します。

- ・幼児クラスの配置人数に対する子どもの数を減少させる。小グループに分け職員自身（短時間保育士や非常勤職員）も、主体的に保育活動に参加する機会を設けるとともに、会議や研修にも参加する機会増やす。（非常勤職員の参画）
- ・キャリアアップ研修の計画的な受講と振り返り

③ 運営管理

施策 1

保育園の多機能化に向け、保護者・地域に様々な機会を設けます。常識を超えるような、今後の保育園の在り方を、地域環境を考慮しながら積極的にすすめていきます。そのために、園内の職員も地域向けのイベント等の企画運営に参画意欲を高めます。

(3) 児童の処遇

① クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	
つき組	0 歳	2 名	6 名	
ほし組	1 歳	3 名	1 5 名	
そら組	2 歳	4 名	1 9 名	
なみ組	3 歳	2 名	1 9 名	要支援児 1 名
にじ組	4 歳	1 名	1 6 名	

ひかり組	5歳	1名	23名
合計	98名		

②月別保育予定日数

4月	・・・25日
5月	・・・24日
6月	・・・25日
7月	・・・26日
8月	・・・25日
9月	・・・24日
10月	・・・26日
11月	・・・24日
12月	・・・24日
1月	・・・23日
2月	・・・22日
3月	・・・25日
合計	・・・293日

(4) 健康管理

健康管理目標（全体）

子ども一人ひとりの発育・発達の個人差を考慮しながら、健康な生活習慣を身につけ、豊かな成長が遂げられるよう積極的に次の点に取り組みます。

i. 日常養護・健康管理

- ・ 朝の視診、登降園管理システムコードモンや連絡帳を通して保護者からの情報をもとに子どもの状態を観察
- ・ 登園時0歳児は園内で検温し、その日の健康状態を保護者と保育士双方で確認しお預かりする。
- ・ 0歳児は月2回、満1歳以上は月1回の身体測定を行い子どもの発育及び発達状態を定期的に把握していく。

ii. 病気の予防と早期発見

- ・ 保育中に体調不良や傷害が発生した場合には、その子どもの状態に応じて早期に保護者に連絡を行う。
- ・ 感染症が予想される時期に、お便りや掲示、アルコール消毒や電解水の利用等で発生予防に努め、必要に応じて、保健所等に連絡し、その指示に従うと共に保護者や全職員に連絡し協力を求めている。

iii. 安全と事故防止

- ・ 保育所内外の安全点検に努め、安全対策の為に職員の体制づくりを行い、家庭や地域の諸機関の協力の下に安全指導を行う。
- ・ 学校110番の設置
- ・ 津波避難対策として上層階への避難経路確保
- ・ 玄関は防犯上、常に施錠
- ・ 防犯カメラの設置

iv. 健康増進と保健指導

- ・ 子どもの健康に関する年間の保健計画を作成し、全職員がそのねらいを理解しながら子どもの健康の保持に努めていく。
- ・ 定期的に健康診断を行いその結果を保護者に連絡。保護者が子供の状態を理解し、日常生活に活用できるようにする。

v. 環境衛生

- ・ 施設の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を常に適切な状態に保持すると共に施設内外の設備及び用具等電解水または消毒液を利用して清掃し（0歳児クラスは毎日、その他必要に応じて）衛生管理に努める。
- ・ 手洗いはペーパータオルを使用
- ・ 事務所にオゾン脱臭機、各部屋に空気清浄機を設置
- ・ 害虫駆除（年間2回）

年間保健行事

- ・ 内科健診 0歳児（月1回）、1歳児以上（年2回）
- ・ 耳鼻科健診 内科健診に含む
- ・ 眼科健診 内科健診に含む
- ・ 視力検査 4，5歳児（看護師による簡易検査を年2回）
- ・ 歯科健診 全園児（年2回）

(5) 年間行事

主な年間行事

- 月例行事 誕生日会、避難訓練
- 4月 入園式、保護者会
- 5月 端午の節句を祝う会、田植え遠足（4，5歳児）、引き渡し訓練
- 6月 プール開き
- 7月 七夕の集い、個別面談
- 8月 プール、水あそび
- 9月 親子稲刈り遠足（4，5歳児）、敬老お祝い会
- 10月 芋掘り（3，4，5歳児） 運動会
- 11月 保護者会、乳児ふれあい発表会
- 12月 幼児生活発表会、もちつき
- 1月 個人面談（5歳児）、かるたとり大会（5歳児）
- 2月 節分、個人面談
- 3月 桃の節句を祝う会、お別れ遠足（5歳児）、お別れ会、卒園式

(6) 食事

i. 目標

- 「丈夫な体・豊かな心を育む食経験を通して、自らの健康を育める子ども」
- 「食」は人間形成であり、人格形成です。乳幼児期に最も大切な「栄養」を豊かに摂取し、健康な体作りをすると共に、食習慣の獲得を促し、生きる力の基礎を培います。

ii. 栄養管理

- 食育会議への参加

iii. 食育

食育は、毎日の生活と遊びの中で、自らの意欲を持って食にかかわる体験を積み重ね、食べることを楽しみ、食事を楽しみあう子どもに成長していくことを期待するものです。そのために、乳幼児期には食域を広げ、子ども達の食への興味を引き出すことを食育の目的とし、「毎日食育」をベースに、企画する食育活動を加えて展開します。

iv. 衛生管理

日々日常点検表と業務完了届を通して実施状況を確認する。

v. 給与栄養目標（給食・おやつで摂りたい栄養量の目安）

	エネルギー kcal	蛋白質 g	脂質 g	カルシウム mg	鉄分 mg	ビタミンA μg	ビタミンB1 mg	ビタミンB2 mg	ビタミンC mg
3歳未満児	465	17.5	15.5	213	2.0	188	0.20	0.28	18
3歳児以上児	510	19.2	17.0	230	2.0	200	0.20	0.32	16

vi. その他

- ・給食だより（月1回）
- ・レシピ配布

(7) 安全管理

安全管理目標

- ・交通安全や避難訓練について記述し、訓練日を記載します。
- ・交通安全教育（9月1日）
- ・非常災害時の避難訓練（月12回）
- ・引き渡し訓練（5月）

4. 施設管理

(1) 事務関係

① 会計事務、管理事務

- ・施設における現金は経理規定に沿って管理を行う。
- ・現金収支は小口現金出納帳をもとに管理を行う。
- ・予算書・稟議書を作成、収支の把握と管理を行なう。

② 児童処遇事務（保育、給食、保健）

- ・毎月の収支は資金収支予算実績報告をもとに管理を行う。
- ・延長保育利用料金等については月末締め、支払金額を保育業務管理ソフト「コドモン」に反映、エンペイに連動させてキャッシュレス決済。
- ・給食に関しては委託事業者と契約を行い毎月の支払とする。
- ・嘱託医への支払いは契約書をもとに行う。

(2) 設備関係

① 固定遊具の設備点検

- ・園内設置ののぼり棒とアスレチックは、月1回園内の設備点検と共におこなう。

(3) 備品関係

① 備品購入予定

- ・お散歩携帯追加購入 2 台
- ・乳児防災頭巾

② 保育用品購入予定

- ・乳幼児クラス玩具
- ・水遊び・砂遊び玩具とボール
- ・3 歳児机
- ・幼児用椅子

③ 給食用品購入予定

- ・食器
- ・調理器具

④ 固定資産物品購入予定

- ・大型モニター
- ・電子ピアノ

(4) 災害対策

① 避難訓練

- ・月に 1 回実施、消火訓練も併せて行う。
- ・土曜合同保育時の避難訓練も実施
- ・保護者引渡し訓練

② 防災設備の点検委託

年間 2 回（7 月 1 月）

③ 非常食糧の備蓄

- ・（全園児＋職員）× 3 色 × 3 日分
- ・消費期限点検（3 月、9 月）

5. 保護者へ向けて

保育への理解と協力の促進

① 保育参加

- ・通年開催
- ・登園から降園までの我が子の様子や、他児との関わり、保育士との関わり当をみていただき、課題点や成長点の共有を行い、ひまわりの保育への理解や連携、育児相談を行う。

② 誕生会への参加

- ・今年度はクラス開催

③ 保護者会

- ・4 月 各クラスの保育内容、年間目標、行事日程等について
- ・11 月・12 月 子ども達の成長の姿、子どものトラブル、健康管理について
- ・7 月、1 月～2 月 個別面談にて園や家庭でのお子さんの様子や子育ての悩みについて共有する（オンラインも利用）

④ 通信（お便り）

- ・園だより（月 1 回発行）
 - ・園全体の子どもたちの様子や育児情報等、保護者が知りたい内容について発信する。
 - ・保健だより（月 1 回発行）…感染症や日常の保健関係のお知らせ等を発信
 - ・給食だより（月 1 回発行）…ひまわりの食に対する考え方や取り組みを発信
- ※園舎内には掲示、保護者にはコドモンで配信

⑤ 第三者評価の実施

実施なし

6. 地域社会との連携

地域社会との連携に関する取り組み

- ・育児講座、保育所体験などを園で行う行事をお知らせする。（掲示板、パンフレット、メール、HP）
- ・地域イベントへの園児の参加
- ・年間を通して保育士体験の受け入れ
- ・園舎内開放・園庭解放

7. その他

その他取り組み

土曜日の活用していない園舎の開放

ひまわりキッズガーデン城山 2025 年度事業計画

社会福祉法人ひまわり福祉会

1. 基本情報

(1) 所在地

東京都板橋区志村一丁目30番15号

(2) 保育理念

身近な大人との愛着関係を基盤に、「受容性」から「好奇心・探求心」へ。
さらに「主体性」を持って成長する子を育みます。

(3) 保育方針

保育園に集うたくさんの親や子どもが、小さな社会体験と生活体験を重ねながら、地域の
一員として様々な人々と共に暮らす知恵と力を身につけます。
そのためにひまわりの保育園では「出会う」「見る」「聴く」「触る」「体験する」「語
り合う」「認め合う」場をつくります。

(4) 保育目標

和と輪と話を実践する子ども

2. 前年度振り返り・課題

(1) 利用者数

	利用定員	利用者数 (期首)	利用者数 (期末)	利用者数 増減 (期首～期末)	空き定員	対前年比 (利用者数 (期末))
全体	60名	60名	60名	0名	0名	0名
0歳児	0名	0名	0名	0名	0名	0名
1歳児	12名	12名	12名	0名	0名	+12名
2歳児	12名	12名	12名	0名	0名	+12名
3歳児	12名	12名	12名	0名	0名	+12名
4歳児	12名	12名	12名	0名	0名	+12名
5歳児	12名	12名	12名	0名	0名	+12名

(2) 職員数

	人数 (期首)	人数 (期末)	離職数	新規採用数	(内新卒採用数)
全体	20名	22名	0名	1名	(1名)
園長	1名	1名	0名	0名	(0名)
保育士	13名	15名	0名	2名	(1名)
幼稚園教諭	1名	1名	0名	0名	(0名)
看護師	1名	1名	0名	0名	(0名)
保育補助	4名	4名	0名	0名	(0名)
用務	0名	0名	0名	0名	(0名)
事務	0名	0名	0名	0名	(0名)

(3) 前年度目標と振り返り

① 保育活動

目標

保育サービスの資質：自分らしさが発揮できる保育サービスの提供

振り返り・課題

保育体験後のアンケートや参加者からの直接いただく声をもとに、次の保育体験の内容を考え企画。園見学は基本第1・3金曜、10:30~11:30(4~10月)、10:45~11:45(11~3月)で設定。実際に子ども達の生活を観てもらうことで、当園の様子を実感してもらうことを重視した。その結果、乳児の生活習慣(食事・トイレ)の自立した姿、幼児の体操や多言語活動、数字・文字へ取り組みに対しては高評価をいただく。

【課題】

今年取り組んできた保育サービスの資質向上は来年度も引き続き行っていくが、特に幼児教育については、保護者からの期待・要望をくみ取りながらニーズに合わせて活動を取り入れていくことが大事である

② 職員の処遇

目標

職員のテーマ：働きがいのあるチーム作り

振り返り・課題

「私は〇〇している」という発言が多く自分軸で保育を進めている職員が多かったが、「私たちは〇〇している」とチーム軸で仕事をしている職員が少しずつ増えてきた。また、出来る人・気づく人の仕事がついてしまっていた状況から、仕事(役割)に人を割り当てることを徹底したことで、職員一人ひとりが役割を意識するようになった

【課題】

・役割を割り当てても、時間がない、できない等の言い分が先行している様子もあるため、今後はタイムマネジメントを重点におき、組織的に時間の使い方もマネジメントしていくことが必要

③ 運営管理

目標

リーダーシップのテーマ：主体性を育む職員集団・組織価値観の浸透

振り返り・課題

日常的に使っている言葉の意味や意図、状態をすり合わせ、認識を揃える対話をしている(エンゲージメント向上)

システム化によって生み出した時間を有効活用し、事務作業を効率的に進める。

【課題】

①業務完了報告書を活用し始めたことでやるべきことが遂行できるようになるが、認識を揃える対話には課題が残る。

②やるべきことをやるべき時に行動するためには、コミュニケーションが不可欠。時間を意識する声掛けが生まれているが人によるため来年度も引き続き行っていく必要がある

3. 施設運営

(1) 当年度目標

① 保育活動 全体

- ・子どもが経験すべき活動の充実（運動・絵画・制作・リズム・音楽・多言語等）
- ・小学生、中学生、高校生の居場所づくり

① 保育活動（各組の保育目標）

担当	目標
1 歳児	・保育者との信頼関係の中で、心の安定を基盤とし、自我の芽生えを育む。 ・生活や遊びの中で五感を使い、心身の健やかな発達と、生活の基礎となる力を育む。
2 歳児	・十分に自己を発揮しながら、相手の思いを受け入れ、自分の気持ちを調整しようとする。 ・できることに喜びを感じながら、健康・安全など、生活に必要な習慣を身につける。 ・人の話に興味を持って聞いたり、自分の体験したことや思っていることを話し、言葉で伝える楽しさを味わう。 ・様々な遊びを通して全身を動かして遊ぶ楽しさを十分に味わう。課題に合わせて意識して身体を動かすようになる。
3 歳児	・自己主張をしながらも、自分以外の人の気持ちにも気づいたり、相手の気持ちを受け入れようとする。 ・生活や遊びの中に期待や見通しを持ち、自分のことは自分でしようとする。 ・身近な大人や友達集団とともに体験を共有し、言葉を交わす心地良さを味わう。 ・生活や遊びの中で、全身を使って意欲的に活動する。
4 歳児	・十分に自己を発揮しながら、相手の思いを受け入れ、自分の気持ちを調整しようとする。 ・できることに喜びを感じながら、健康・安全など、生活に必要な習慣を身につける。 ・人の話に興味を持って聞いたり、自分の体験したことや思っていることを話し、言葉で伝える楽しさを味わう。 ・様々な遊びを通して全身を動かして遊ぶ楽しさを十分に味わう。課題に合わせて意識して身体を動かすようになる。
5 歳児	・一つの目的意識のもとに関係し合い、事態や場面に応じて相手の立場に立って相手を理解し、解決しようとする。互いの違いや良さを認め合いながら、目的に向かって協力し達成感や喜びを味わう。 ・身体や栄養、病気に関心を持ち、健康や安全などの生活に必要な基本的習慣や態度を身につけ、見通しを持って主体的に行動する。 ・体験したことや自分の思いを相手に分るように筋道立てて話す。状況に応じて声の大きさや話し方など、相手に合わせて話せるようになる。 ・運動や遊具・用具を使用した活動を通し、自己の身体像を確立し、自分の身体の隅々までコントロールするようになる。相手の動きに合わせて、少しずつ動きを予測しながら自分の動きを調整しようとする。

② 職員の処遇

中堅層（経験 5 年以上）の育成
「人を育てる」パートナー制度の導入

③ 運営管理

エリア内の業務標準化
園の特色を打ち出す広報宣伝

(2) 実施施策

① 保育活動

施策 1

子ども達がワクワクするような活動を取り入れるために、乳幼児会議にて具体的に活動の内容を決定し、月初めに保護者へ発信。その月に何をどんな活動をするのか保護者にも共有をしていく

施策 2

地域の子育て家庭や小中高生の居場所作りをする

② 職員の処遇

施策 1

職員一人ひとりの役割とその役割に基づく能力の育成を実施。チーム全体でビジョンを共有し、各人がどんな役割を担うのかを明確にし行動に移す

施策 2

パートナー面談を通して互いに認め高め合う組織風土の醸成（良い点はもちろん改善すべき点も伝えあえる関係性の構築）

③ 運営管理

施策 1

3 園合同の職員会議を実施。ひまわりの保育、行動基準、人材育成等、各園の取り組みではなくエリアの取り組みとして実践していく

施策 2

LOVOT との関わりを通して心身が育まれている子どもの様子、保護者・職員の様子などを、積極的に発信していく

(3) 児童の処遇

① クラス編成

クラス名	年齢	園児数	備考
あんず	1 歳児	1 2 名	
かりん	2 歳児	1 2 名	要支援児 1 名
ぶどう	3 歳児	1 2 名	要支援児 1 名
りんご	4 歳児	1 2 名	
さくら	5 歳児	1 2 名	

②月別保育予定日数

4月・・・25日
5月・・・24日
6月・・・25日
7月・・・26日
8月・・・25日
9月・・・24日
10月・・・26日
11月・・・23日
12月・・・24日
1月・・・23日
2月・・・22日
3月・・・25日

合計・・・292日

(4) 健康管理

健康管理目標（全体）

・子ども一人ひとりの発育・発達の個人差を考慮しながら、健康な生活習慣を身につけ、豊かな成長が遂げられるよう積極的に次の点に取り組みます。

i. 日常養護・健康管理

- ・毎日（登園時・午睡前後）、園児の体調を把握。午睡明けは検温を行う
- ・コドモンアプリにて個々の健康観察と管理

ii. 病気の予防と早期発見

- ・予防接種の呼びかけを行い、事前に感染症拡大を防止する
- ・アルコール使用し、玄関での手指消毒を行う。
- ・感染症発生時には掲示にて注意を促す。

iii. 安全と事故防止

- ・施設内外部点検（月1回）
- ・保育環境の整備（柵や壁などの角に安全ガード、クッションなどを設置）
- ・ヒヤリハット、メッセージグレードを全職員が把握。分析を行い再発防止に努める
- ・SIDSの防止（午睡時睡眠チェック 1～2歳児…10分間隔、3～5歳児…15分間隔）
- ・監視モニターを設置し、午睡等の安全対策を強化する

iv. 健康増進と保健指導

- ・園だより内の「保健から」の欄に保健便りを毎月発行し、健康情報や保健指導を行う。

v. 環境衛生

- ・毎日保育室や玩具の清掃、消毒
- ・トイレクリーニングの実施
- ・エアコンクリーニングの実施
- ・オゾン発生装置
- ・空気清浄機

年間保健行事

内科健診・・・年2回（全園児）

歯科検診・・・年2回（全園児）

(5) 年間行事

主な年間行事

4月・・・入園進級お祝い会

5月・・・田植え遠足・保護者会

6月・・・個別面談

7月・・・七夕・一日特別保育・水遊び開始

8月・・・水遊び

9月・・・引き渡し訓練・親子自然体験・納涼会

10月・・・運動会

11月・・・個別面談（1～4歳児）

12月・・・個別面談（5歳児）・クリスマス会・もちつき

1月・・・お遊戯会

2月・・・節分・保護者会

3月・・・ひなまつり・お別れ遠足・お別れ会・卒園式

(6) 食事

i. 目標

「丈夫な体・豊かな心を育む食経験を通して、自らの健康を育める子ども」

食は人間形成であり、人格形成である。乳幼児期にもっとも大切な栄養を豊かに摂取し、健康な身体作りをすると共に、食習慣を促し、生きる力の基礎を培う。

ii. 栄養管理

献立会議に参加、及び栄養摂取量表で確認をする。

iii. 食育

食育は、毎日の生活と遊びの中で、自らの意欲を持って食に関わる体験を積み重ね、食べることを楽しみ、食事を楽しみあう子どもに成長していくことを期待するものである。そのために乳幼児期には職域を広げ、子どもの達の食への興味を引き出すことを食育の目的とし毎日食育をベースに、企画する食育活動を加えて展開する

・食育会議を毎月開催する

iv. 衛生管理

日々、日常点検表と業務完了届けを通して、実施状況を確認する。

v. 給与栄養目標（給食・おやつで摂りたい栄養量の目安）

	エネルギー kcal	蛋白質 g	脂質 g	カルシウム mg	鉄分 mg	ビタミンA μg	ビタミンB1 mg	ビタミンB2 mg	ビタミンC mg
3歳 未満児	465	17.5	15.5	213	2.0	188	0.20	0.28	18
3歳児 以上児	510	19.2	17.0	230	2.0	200	0.20	0.32	16

vi. その他

アレルギー食対応児：鶏卵（１名）

(7) 安全管理

安全管理目標

- ・交通安全教育（年２回）
- ・非常災害時の避難訓練（月１回）
- ・引き渡し訓練（９月１日）
- ・不審者訓練（月１回）

4. 施設管理

(1) 事務関係

① 会計事務、管理事務

- ・施設における現金の管理は経理規定に従って行なう。
- ・現金収支は小口現金出納帳をもとに管理を行なう。
- ・予算書・稟議書を作成、収支の把握と管理を行なう。

② 児童処遇事務（保育、給食、保健）

毎月の収支は資金収支予算実績報告をもとに管理を行なう

- ・延長保育料金等については月末締め、支払金額を保育業務管理ソフト「コドモン」に反映、エンペイに連動させてキャッシュレス決済
- ・給食に関しては委託業者との契約を行い毎月の支払いとする。
- ・嘱託医への支払いは契約書をもとに行なう。

(2) 設備関係

① 固定遊具の設備点検

- ・固定遊具なし

(3) 備品関係

① 備品購入予定

- ・園児机（幼児）
- ・園児椅子
- ・iPad（12 台）

② 保育用品購入予定

- ・運動用品・玩具・絵本・楽器

③ 給食用品購入予定

- ・食器類・調理器具

④ 固定資産物品購入予定

- ・顔認証システム

(4) 災害対策

① 避難訓練

- ・年12回実施（地震または火災を想定）
- ・引渡し訓練実施（9月）

② 防災設備の点検委託

- ・年2回実施（9月・3月）

③ 非常食糧の備蓄

- ・（全児童＋全職員数）×3食×3日分
- ・消費期限点検（概ね4月・9月実施）

5. 保護者へ向けて

保育への理解と協力の促進

① 保育参加

- 目的・・・子ども達の生活や遊びを保護者に伝える機会として、実際に保育に入ってもらいながら保育・子育てへの理解を得る。
- 実施時期・・・通年随時受付

② 誕生会への参加

- 目的・・・子どもの誕生日当日または近い日に、その児だけの誕生会を行なう。
保護者には保育参加を通し、子どもの成長を実感してもらう。また、生まれた日などのエピソードや子どもへの感謝等を伝える日にして頂く。

③ 保護者会

- 保護者会（5月・2月）：保育理念・保育方針・保育目標をもとに、園の価値観を伝える場とする。また、時期に合わせて子どもの成長に伴って表出する姿や発達段階等を分かりやすく伝え、子育ての協同意識を高めてもらう。

④ 通信（お便り）

- ・園だより（保健、食育の欄も含む）・・・月1回発行
- ・クラスだより・・・月1回発行
- ・その他（行事のお知らせなど）・・・必要に応じて発行

⑤ 第三者評価の実施

- ・利用者アンケートに実施・職員アンケートの実施
- ・組織マネジメント、保育サービス、特に力を入れた取り組みについて園運営に関する全体評価を受ける

6. 地域社会との連携

地域社会との連携に関する取り組み

- ・町内会加入
- ・近隣との交流
- ・小学校の学校公開や交流会の参加
- ・要保護児童対策地域協議会への参加

7. その他

その他取り組み

- ・特になし